





萬葉詩集

天保甲午新錦

北風抄

一石室婆婆文研

上の巻

子宮胞衣の形狀かよび懷孕の事とく
懷姪をもむ啓に大畧をあめり

鎮帶產搗の利害をとく

胎の倚側と整復をべき術を示し

子宮の位置を探り知能にとど示す

坐草分娩より胞衣を下へ草小卧むべたこと示す

臨産小坐婆心得べたあとをしめそ

下のはき

産前後の病小坐婆のあゝろえ登きことしめり

兒の頭を露へ産らぬるもの救ふ術とあめを

逆産をとりあぐる術をしめり

坐産をうまく置き術をあめを

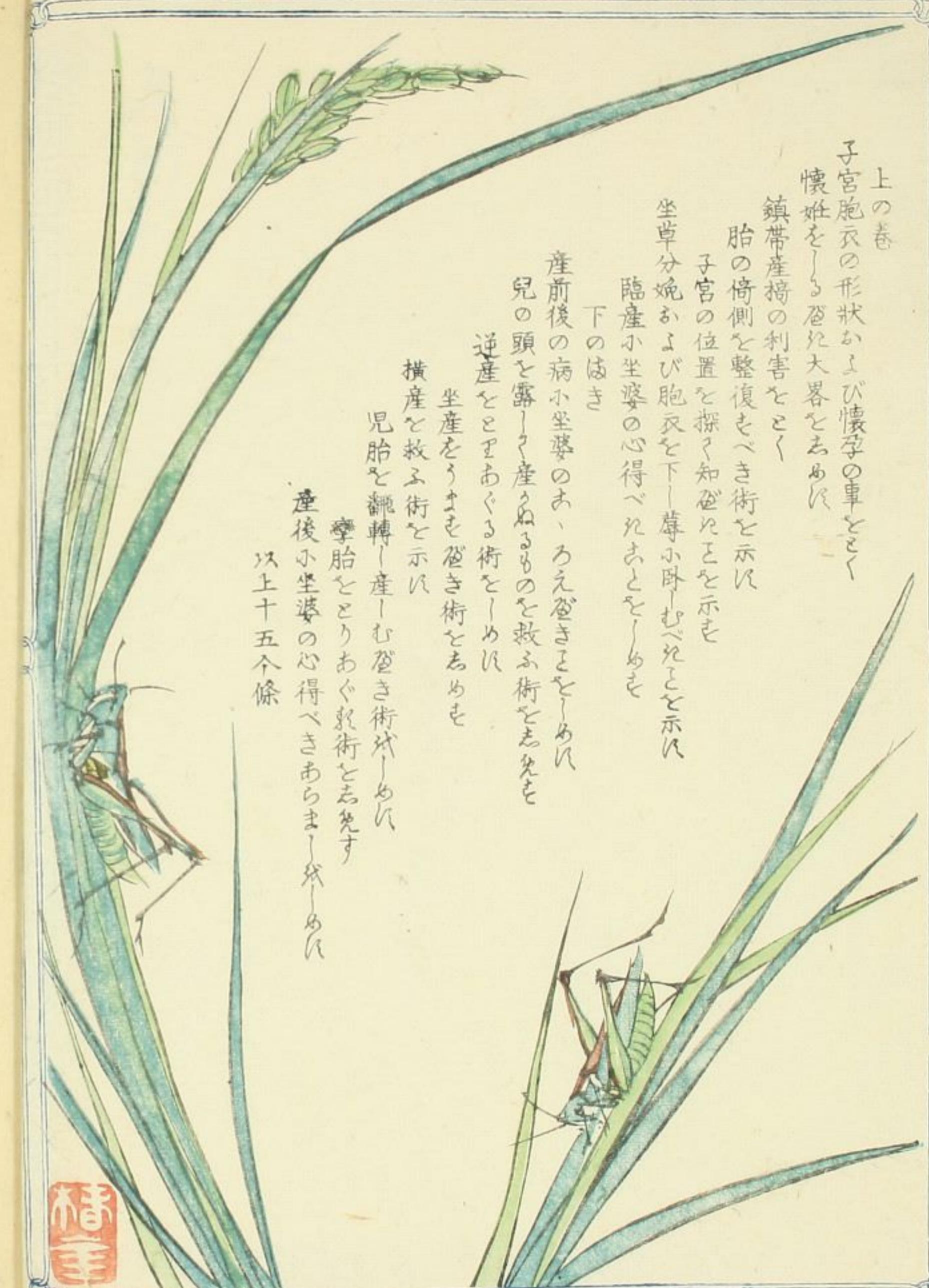
横産と救ふ術を示す

児胎を翻轉一産一む置き術ばへめり

撲胎をとりあぐれ術とあめす

産後小坐婆心得べきあらま一然へめり

以上十五个條



どうあげどく心得草卷之上 一名坐婆必研

人向一生の果福とりよとのことな定あり。士農工商僧鑿坐婆
そきくの世ぞうとも。皆未生以前三賦たれ天命の免づて
そのちとば。厭ゆと厭あくらば求とも求得んや。もぐくの
あむ上も下小佐らも。下も上み治らも。あひとも小力と合
き世代濟ものやまば役丁轎夫の賤きものとりいだを。受け
ぢ車とくゆゑ小事業なり。區小別たれど。お夫地化育
そく徳り具かく。その一を少しくのらむ。故小賤り侮づれ人
とくもなし。はへく坐婆なりたぐひも。人乃死生小係る。一木事
を任さく。容易ならぬ業なれ成人。小賤侮れあひ。持りゆ
ゑいのふせり。小うなその術小拙く。志篤うらばく。み川の

のうあはれやまつれものなり。をもよろ生命の開る職なむち。そ
の設心乃善心悪心かよろく。日か福慶をも積すと罪惡をも重
るをもふく。たゞ人過かよる母子乃命を断ちせあるも。どこと
里故く爲るふとあらば。双成たりて人を殺りたゞひあら称
ち。君主の罰も免せむも。天道の照臨明察なれば。ほひみへの
乃定りたれ果福のうちふも。たゞとも災咎があひく。さうのう
ぬ終焉とぞしきげ。我乃餘殃代子孫ふすと及あす。豈畏死不
あらばや。凡世乃中小生とく活るをのみ。のち惜一とあり
ぬちなく。そのとくとゆく心絶ふとぞも。天地生々の道可
合ひ。おも小逆くその生命と殘害も。天地乃心小背のゆゑ。
その罪いづぐの免得無れ。ほれふる野瓜葛のもひもつても

龜紀垣代たゞ神く夢延ゆくもせし。眼ありて不見つて
疑也。巖乃穴小壓迫也。のううとく發生れ草木乃は。は
なり小空成さーく直遂をあらへ。手足ありて探索一と
あらへは斯くがおきく。蟲魚鳥獸乃命を一とく奪。飲食
殊利るけもやうらむ。草木を体ごそくのう害をのゆる生を
欲あやかく乃如し。はくく萬物乃長く人間乃命も。我乃
貴重乃人命小係ともあはれ。忽略を爲れふもあら
せ。さくまけ收生媼乃はくある。心と勞も我のまからざ。不
淨を執業なむぢ。好く爲爲れかもあら御ゆくも。壯かく

夫小後ごとご詫あやむた子こななををななせせば。不得め已め世よととゆ
生おれれののややににいいももああららざざ先させせと。せせぐぐか坐ざ婆ばととやうりた
ららば。ああらら代だい糊こ口くとのとのいい得えく。たとく時ときののははささ人じん合あぬぬるる事こと
生おき全ぜんををかかそそんんと。罪つみののふふううれれとと找さくく。前ま少すこししりりと
おおままく。武ぶ門もん小こ生せいをを商あ賣うととななく。或もち繩の徒た坐ざ婆ばととやうれれと
も。ああととねねおおり世よ小こ生せいををううけけざざ難ひををてて定さすすれれああと
みみく。そそのの人々ひと小こ具ぐのの職しょく分ぶんななく。又また業わざをを轉ころトと墨いををく。俗ぞく出でくく僧そうととななく。夫ふ小こ後ごとと坐ざ婆ばととやうれれと
ももややううり志ね願ねがととううれれああううとと。皆ま冥めい々めい中なか小こ定じょうととあれあれあと
かかく。天あ地ぢのの自じ然ぜんかかれれととののなり。ゆゑゆゑ小こ世よをを坐ざ婆ばくくん
をを。ううこのの道みち理りをを辨べ知し。そその存こ心こころふふみみううししれれど。不ふ

淨じやうををととああく。よよたたびびおおややふ。身みのの罪つみ過ごとと滅めし。菩ぼ提だいをを植うええる種たねととななく。後ご生う願ねが乃の珠じゅ數すうけけままぐぐり。稱めい名めい誦じゆ經きとと教きよ
すすも。ももれれのの小こ福ふくをを積ためめる善根ぜんこんととななく。ゆゆく。ゆゆく。ゆゆく。
活は入い手て段だんをを職ますすたたもも。りりくくもも果か福ふくのの勝因しょういんととのの少すこ少すこ。
よよううくくぶぶ生うれれとと小こそそあありりる。すすととおおももそそのの報ほうをを待まく。
身み乃の生う計けいととせんせんぶぶたためめななくくららも。ゆゆ陣じん痛うももううるる。腹はら剖はらすすががああとときき苦楚くしよをを。眼前まくまのの見みたた小こあありりてて。そその報ほうのの多お寡寡。
ゆゆくくううるる小こううふふだだ産婦さんふととううままくく心こころをを惱うならら。ちち身みせせんんととおおもも外ほかのの外ほか。慮おも他ほかななののれれ。おおううををややるる痛う苦くをを視みたた。ななくく名利めいり乃の心こころををももたたせせ。憐れ忍しのななれれ行ゆくく。あありりとも。おおととおお詫あや辱にくととうう。世よのの話は柄ほすすたたるる。天あるる。

綱必漏。漏て死ある也。我もあそろしとぞかそんぞや。ごくりい
たり。慈心あるとのも。百計。一々其の苦を救得せんとれ
をひなづら。困済危険乃詫。ふり下りとも。その術精到たりで
ち。中々救活。生れあらずあらゆる坐あむ。伏視のとふく。我乃
人を殺ふり下りとも。との罪やひきつゝ。世間産婆の為
をあほも。たゞ習熟たりとりよはぐふく。とぞより術を法もあ
れふあらねど。とぞ舉子乃りことのとれ。己が任とゆくとも。免乳
乃一條小あくとも。その死生代委がく。かゝる處置か隨す。
一たび誤事。母子とも小命を殞ふりされぬふ。ところとも
恐慎。講究。たゞに重責。からだや。世小産科鑒と云ふとモ
リも。そのの京師小賀川玄悦子。卒子とりひ。世小もぐれ

たる者出。海外ふを此方小もむう。と。聞かねる産術
と。おのの創意。うもく。のら。驗。入乃危急と救たれ。その精妙
も。のくは。もあらゆる。圓生術。と。ひく。釣。と。用。子。と。探出
と。あく。伏秘訣。と。高足。と。門人。小け。こも。成ゆ。ふ。たり
と。聽。り。利。と。あ。必。害。と。從。が。自然。と。理。ふ。今。小。の。と
て。も。や。魚。と。人命。と。狀。傷。ふ。不。仁。と。尤。力。難。と。嘗。れ。あ。く。と
さ。ま。ぶ。ら。と。子。玄。子。も。あ。と。伏。恐。と。産。論。と。よ。書。ふ。も。釣。術。へ
あ。教。さ。と。姿。小。人。小。傳。ざ。と。赤。流。小。あ。く。と。て。も。そ。の。流。一
み。そ。あ。ろ。そ。の。に。あ。り。の。な。く。と。ア。ー。く。も。不。解。と。の。二。の。説。と
用。ざ。と。圓。生。乃。釣。と。市。小。力。と。姿。意。小。用。と。人。と。あ。互。は。る
あ。や。多。く。と。の。慄。虐。そ。ろ。と。憎。負。輩。あ。と。を。す。よ。り。お。乃

圓生乃釣小く出をとひ。死胎の止らば。いふふそれとも
産也得ざれをのみふす。止あやめ不得ぞ用ることなれど。陰小裝
綿括條を用ねてある小のれを。釣の急小死たりとのを色
ぬじれ。聲聞をはうれんう出づるをなせば。まこと仁小
あらばしもりと畜のうど。近こうも坐婆小をもて代用る
ものありとこの聞かず。そち旨趣も。小乃蟲をこゑへ大
乃蟲と助起。道小やあへれこととぞなむ。俗諺と道辭小を
是じて胎児乃賢愚豫知られず。小あらゆべ蟲の大小を
譬へん。不倫こそぞとちとる。たゞ人釣少て失ぬる
が胎児乃命期少とせよ。同くも助起へ。傷もとりなみの
らん少く志のざれを。自殺へ快ぞ。そも代術ぞ

讀ち。人たるもの道小戻り。予も専門小あらねどとおの
流弊と矯と思あ。有年。暇を。の神明の
呵護少や。嚮小偶發明たれ一術の釣小のや。至れをと
なり。我進す。後も力とと用ひ。おれ残もくととあ
れふ。世乃乳醫も男子小。苦きは。ゆう身を委
せ。愧りとれもよ心もわきく隙を。先年難
夜寝。すれをのをえ。うふと。あく残坐婆小つ
たへ。施しめば。産婦羞恨とれり。人を救ふと
は。多のれ。おり。おと書と述る。志ち起。難する。希
世乃收生婆。意と潜。今述る。と。術を朝夕事實小驗

生民を濟す。幾ぞや。かくも自家富身榮く悔慢
られかゆきをかく。却て坐婆小なり。宿因と云うあ
ことあるにひるべたなり。必く我慢偏執り心をもく。吾
術あり。のうへのれ姦迂遠乃説をともひ煩きあをとと
せんやと蔑棄く。よくその罪と重くすまづれ。おもと予が穩
婆小望とあうたる。文政十三寅歳仲春六日。洗心尊中小識。

子宮胞衣の形状かよび懷孕の事と説

牧生媼哉の術小巧うらんあく成かきく。すら子藏乃位置形状
かよび懷孕乃あく知り。子藏ち小腹小位。前から膀胱
後から肛門かられたる腸あり。其間小嵌あり。大きさ一寸半
ぞの。その形も壓區たれ梨子乃ゆうふく。いろ真紅なり。口

も陰戸小むのひく。陰茎乃横小披口ありとの似たり。月も
あまるところ血脈中より下のちまく。子藏中の細管
より洟出で陰戸小下に。おり血をそらし出を管の内と見もの
かゆう。至鐵微小。く見えぬ。うだたわざなり。この管より
洟出たれ血も。よろびの血とと被なれゆゑ小病あり。子
宮口緊縮大れ。凝く塊血となく。こなやむ。人ふうて多
少もあむ。そのあらは。成の。一月小百目あたり。二百
目。やごり血残あると。常なり。とりへ。孕て。小ちおの血を以
て胎をや。ちゆうがゆるに月經き。まづ産後ち。母の血が乳汁と
かく。子育れゆゑに。月信ゆき通せる。かく。然うれあむど
も。懷姪小月經通じ。乳を哺な。づらも。月信来るもの

ち。多く強健なる婦人小あることなく。病とても癆づれをの多
い。漏と白帶下とりよどみのち。子宮頸と陰戸内向より洩出る液
ゆく。慾情を起し。かよび交接乃と見少ヒリモヒのゆく。粘滑
あれものゆゑ少。分娩乃と見少ヒリ殊あ不く出て。胎児出路の便と
かる。自然乃妙理處也。孕月既少も。子宮意外に開張。月々に膨
脹す。諸臓を推排て。逐次小圓なる。將產する。交骨両方へむらき。
産戸寛闊たり。胎児漏出せぬ。胎児母乃胎内小舎あ
ひざう柔軟少しく胸腹をさがる。産出小凝澁なけども。一た
び氣を吸呼す。わちら。腹肚四體膨脹す。開節硬なり。頭を出し
て。肩をくく手足乃礙住す。出づるにあらふもいたる也
胞衣も。子宮底小着く。受胎乃是めより。月經乃血と以て漸

次小成ゆのゆく。微細小つゝてぶ。二膜と層たる囊ふく。そのうき
なりたる膜小さきのり受用あり。臍帶も。この胞衣より血を洗
なづく。児を養ふ道路少く。の乃月経乃。常から子宮へとれて復
ところがなれ血を。今ちにうけく。胎を育たれあまり。ふよび
臍帶と傳。胞衣より子宮底ふく。母乃體中少く。腹筋がゆゑ
小。血汎たる管一と。う血を管二。三條を糾合す。その向か
児の膀胱より小水をうけく。胞衣のうちへ泄出し。臍帶乃血管
外脂膜乃内汗傳す。母乃膀胱へ輸を路あせども。微細たるゆゑ
小ええづく。たゞ燎然不知る者れども。三合繩を外す。膜
ふく裏たるをのたり。このうち小胎児より母乃體へ血汎の血を
ニ乃管少く。脈動あれゆゑ少。分娩のと見臍帶を壓ことひまつて

是。兒乃死ぬれあると。これら動脈をうきて。故なり。たゞも口
鼻をふきだす息たの氣がおき。胞衣乃形も圓扁。中央あ
はく。上面乃子宮底小連着。血を受容るところ乃外ら。膜代以
てつみゆゑひ兒をほむ膜。その間相離。あも一寸ばかり。臍帶
乃蒂也。胞衣の裏面小あり。臍帶も被膜をほらぬき。兒乃臍
小連續。この胞衣乃膜也。兒をほむ膜。其のあひど小連續。たゞ
臍帶をまかひ。あひとも色どり。被膜直小ほらな
アラホリ。と思ふも。あくまうなり。胞衣温。あひともそののろ
真紅。冷。紫。紅。綠。黒。赤。裏面も絶。荷葉似。想
く破裂。凸凹。ある。持の温。なれ。あひど。中。小。蓄。たる。血。が。凝。固。さ
る。由。赤。かく。アラハ。兒。被膜。河豚皮。の。絶。白。

きをもつふや。疑似。ちのと透明。うき。その質も。り。く
く薄く。淡紅色。ふる。れを。水。小。あらへば。なく。白く。も。とも。破。を。
れ。を。の。ゆ。胎兒翻轉。乃。と。ふ。や。あ。せ。た。細。片。を。頭。か。い。づ。れて
産出。ね。もの。あ。り。ち。り。碎。片。が。子。宮。中。小。の。く。る。後。日。小。月。經。乃。障
礙。と。な。り。ある。ひ。も。こ。の。膜。乃。碎。片。小。月。々。の。血。が。漸。次。小。粘。着。す。竟。小
も。癥。塊。と。な。り。病。と。な。り。と。下。た。る。も。の。と。そ。り。く。み。た。れ。と。あ。り。
胞衣も。子宮乃脉絡と連続。た。難。を。め。断。く。産。出。る。ゆ。急。小。腰。可
裂。が。か。れ。痛。乃。徹。を。あ。が。ゆ。れ。こ。も。あ。り。受胎。と。ち。ろ。れ。理。も。あ。り
ら。く。か。く。曾。く。五。十。日。許。小。か。く。く。小。產。一。た。る。と。そ。く。小。頭。面。手。足
乃。形。具。す。頭。顱。殊。大。小。そ。の。男。女。を。そ。そ。く。の。重。た。あ。り。古。人。の。説。も。こ
ろ。れ。あ。り。解剖。書。ふ。も。そ。の。初。小。二。小。黑。點。あ。れ。そ。の。眼。と。か。り。鼻。先。生

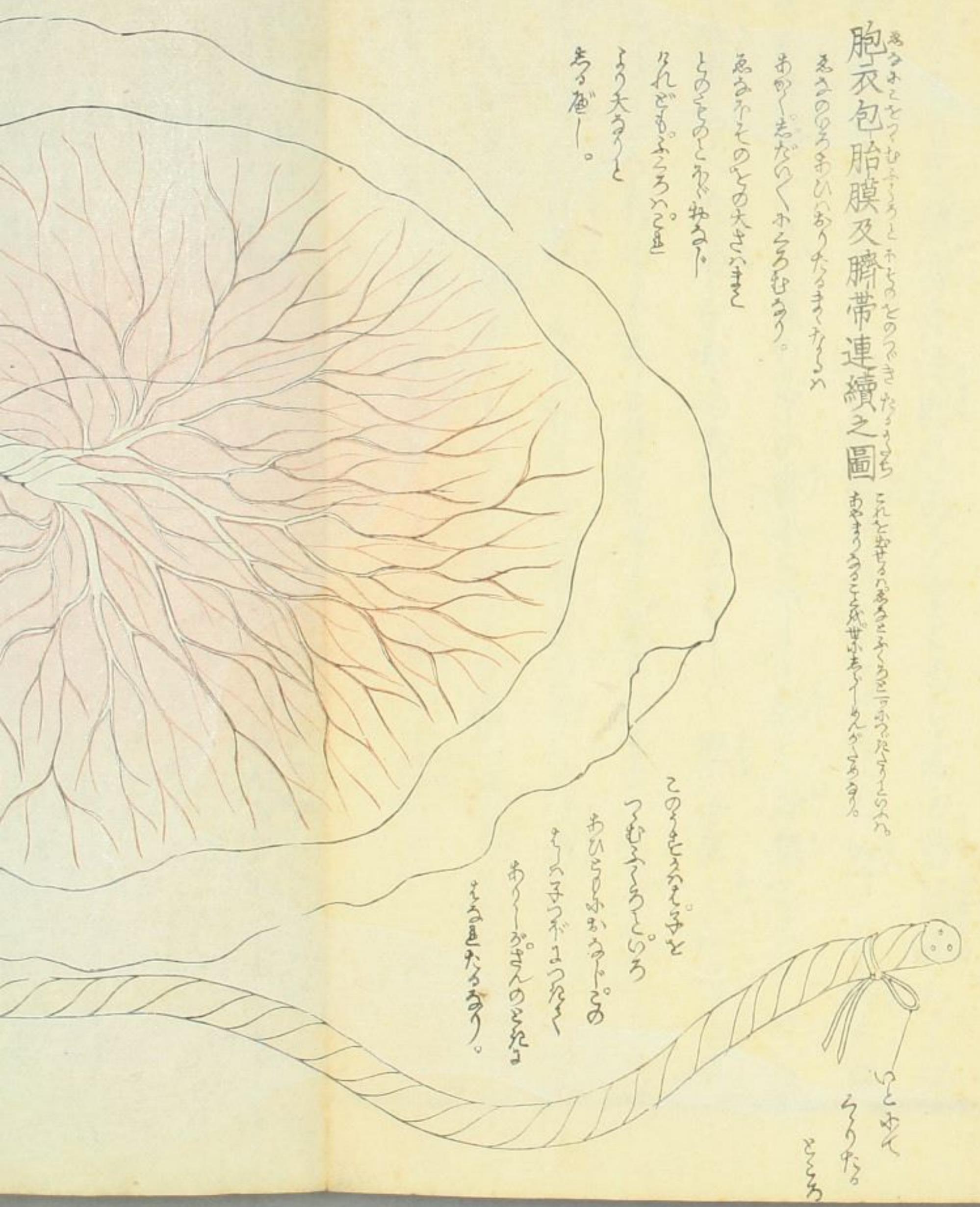
月を逐く形となむをもつて。その説乃宜然也。と推知も。予知る。
人小鷄卵ヒナノクニ乃うありやうなるを逐次小破く。やうて卵のあつて。か。との下
め小喙ヒナノクニとからりまづりのゆで小黒點ヒナノクニを見。その後ふぞれ小かる小赤小點ヒナノクニ
至血系ヒナノクニ連続たるをみ成て。漸小明ヒナノクニあり。形體具成とのつゝ。人もは
がのあゆく。漸次小形體具ヒナノクニ。の五十日ヒナノクニ胎のやう小なるものや
見えず。又鼻ヒナノクニ人生乃ちト。あたるこゑ。むう人の人ヒナノクニの産る。順
産ヒナノクニ必鼻ヒナノクニを陰戸ヒナノクニ小むけ。産出。天地ヒナノクニ氣を容受。生ヒナノクニと之をぐそ
る。實小其驗あり。自然ヒナノクニ理思ヒナノクニ。何と小モトも。小孕ヒナノクニ
て。知らぬ。かくその形もあるものな。たゞ二三月ヒナノクニ小。墮胎ヒナノクニ
しなり。人ヒナノクニ體ヒナノクニを具する。のと。廁蹕ヒナノクニ小。う。育りえざるもの
ある。む。りある。ある。と思ふ。胎衣ヒナノクニ。胎ヒナノクニ從ヒナノクニ成。ものふく

子宮底ヒナノクニ小つて。たゞ。果實ヒナノクニ。蒂ヒナノクニを上ふ。枝ヒナノクニ在。おと
く。尾ヒナノクニを蓋ヒナノクニ。ふ。あら。だ。胞衣ヒナノクニの被膜ヒナノクニ中。小。粘滑ヒナノクニ。水液
充満ヒナノクニ。月満ヒナノクニ。あひ。胎兒ヒナノクニの水液ヒナノクニ中。小。浮游ヒナノクニ。位置定
里ヒナノクニ。あ。死ヒナノクニ。やう。な。き。と。月経逐ヒナノクニ。大。く。な。お。す。こ。づ。ひ。て。必。子
宮底ヒナノクニ。胞衣ヒナノクニ。蒂ヒナノクニ。相對ヒナノクニ。母の背ヒナノクニ。む。の。ひ。頭ヒナノクニ。と。下。小。尻ヒナノクニ。尻ヒナノクニ。上
み。両手ヒナノクニ。腮ヒナノクニ。と。挂。へ。膝ヒナノクニ。を。曲。く。腹ヒナノクニ。前。へ。あ。死ヒナノクニ。踵ヒナノクニ。を。臀ヒナノクニ。お。泣。け。
面ヒナノクニ。膝ヒナノクニ。と。代。ひ。く。ろ。こ。ろ。へ。よ。せ。腹。上。へ。相。會。す。形。小。なり。て。
背ヒナノクニ。母。乃。腹。乃。う。入。む。け。頭。と。尾。と。低。し。形。狀。具。腸。胃。機。轉。う
くる。もの。な。き。ふ。い。う。て。被。膜。中。水。液。見。兒。乃。口。中。より。添。入。
く。滋。養。と。あ。そ。び。ゆ。名。小。產。出。黒。屎。通。じ。れ。る。胎。内。小。有。
うち。乃。大。便。な。り。児。己。小。活。氣。得。て。の。ち。少。自。動。こ。と。死。為。

のくからば。母乃運動屈伸ふらひ。臂とそろ脚と伸す。
も倚斜小をなるゆゑ。母乃腰腹小寧急とおぼぐ。脚とつ。肝
門へも。或も小水乃通利とさへ。浮腫など出だす。あうの
みからば。子宮もその人乃性質ふう。正中ふのまちあらざ
也。胎児張大ふあるかをこび。漸次ふ倚側もあらざ。それと推
て正中へやりくも。あらゆる素乃やうふあれ。世間小
かき。おき。頭代上ふ一坐たるやうやて居とのえあら
ぬ。産論乃發明小たゞひなけど。圓き子宮の形ふ從
ひ。體を屈す。形小なり。居坐れ自然乃勢たゞ。賀川家ふ
て腹上ふ。按く。頭なりと。よもその頭ふあらば。臂とそろ脚
を伸す。おき。前ふひとよおき。前ふひとよおき。前ふひとよおき。

の小診知る。おれの坐なりと思づ。はくそく。うう子ううと
ゆづ。誤なり。りども。その婉出んともれど。屈縮たる體
と。一時小伸す。頭と翻回。膜を衝やす。脚底ふ。胞衣を上へ
突。くの身と跳せく。下子宮口ふむ。と。をのう。おき。子
頭を上ふ。一たる。をのう。轉倒て下へ。も。ふらあらば。ゆゑ。子
が。おき。かく。り。おき。却。非なる。転。この轉身の機動ふよす
く。被膜を脱出了。頭乃。く。小障。のあり。脚のくに餘
隙を得。も。頭を陰戸ふむ。よ。あまからば。あら。脚をのむ。く
逆。ふ。下ふむ。よ。お。逆。生。ふ。あ。お。あ。と。ふ。く。腹を横骨ふむ
け。腮代うけ。出。の。多。お。あ。お。逆。生。ふ。胸
腹を母乃背へむけ。う。は。お。も。あ。り。と。そ。の。も。あ。り。

背面 上首 小孕あり。恐らくその理ある。然れどもあらば事。事物の
寢もうそり。何んぞのなまく。あくは疑かれて。あらう。志をもく
後日乃發明をはちて。りよある。然し。凡て事物の上よりい
角。胎児乃頭も。其の體より。まづ。天地の條理より
りべ形をなと。不先鼻より。呼吸ふよ。生活づれとのやうだ。
口鼻を先出さんとして。自然と頭を下ふむべし。わが。正孕かて
あれど。ゆゑ小先脚を出。あるひづ尾を出。なまじき。皆そ
の寢ふく。常とう。なれど。のやうべ。順逆。理。拘ら。され
を救乃術。あれ。下条小説示を看。明か。知べ。され
小胞衣被膜臍帶と連續寫真を出。その大略を示す。
懷妊を知。筆允大略とあらう。



胎兒之形體圖

胎兒之形體圖。此圖示胎兒之形體，並標註各部位：頭、身體、四肢、尾等。

頭：胎兒之頭部，顯示出生後的形狀。

身體：胎兒之身體，顯示出生後的形狀。

四肢：胎兒之四肢，顯示出生後的形狀。

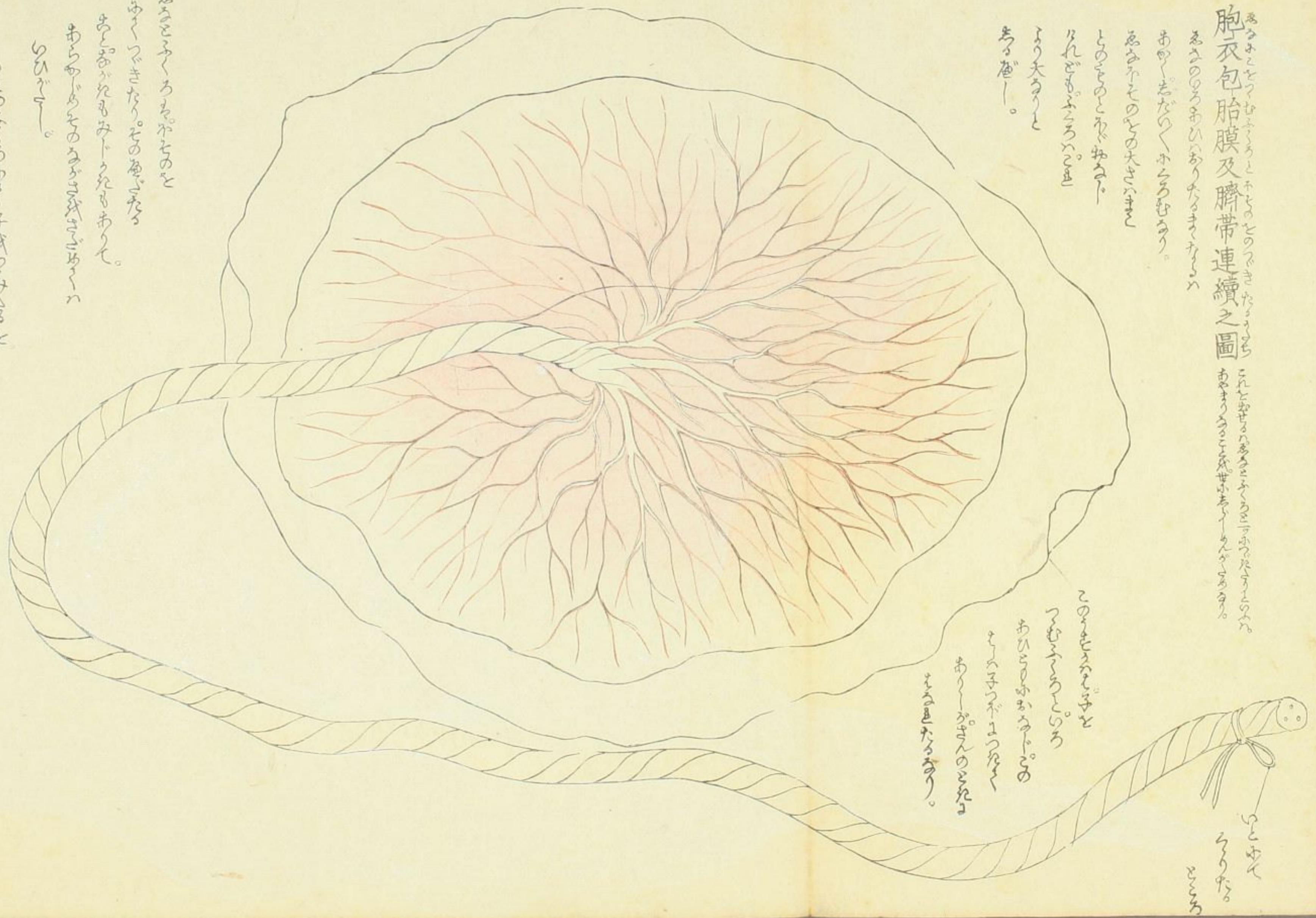
尾：胎兒之尾部，顯示出生後的形狀。

其他：胎兒之其他部位，顯示出生後的形狀。

背面首小孕ある恐ろしの理ある爲たあらへあらゆど。事物の
寢あらう。アラシのなまく。あら疑あらこもあらう。志をもく
後日乃發明をはちよりある。凡て事物の上よりい
事より。胎兒乃頭も。其の體よりはりあひおもく。天地の條理より
のへ形をなす不先鼻より。呼吸ふよ。生活づれをのゆゑ。
口鼻を先出さんとて。自然と頭を下かむべし。わがみ。正學にて
あれ。ゆゑ小先脚を出一。あるひも尾を出一。なまく。皆そ
の寢かく。常とう一。なれどその大きさと
を救乃術あれ。あれあら。下条小説示を看て明か知べ。これ
小胞衣被膜臍帶と連續寫真を出一。その大略を示也。
懷姪を知。筆允大略をあらむと

小胞衣被膜臍帶と連續寫真を出一。その大略を示す。

懷姪おんねいを知し大略おうりきとちあわせ



○ あふとふくろも。不そめと
ゆくべきなり。そめをさむ
あとあがたもみとくれもある。
あらやぐらそのみよきがくめへ
りひが。

○ この子くろかく子成つみくると
子うぐいのこた葉はかまとなるが。不そめ
をつかなま。ふくことくらふ
ありふる。

一切乃事學より馴なます。俗諺ことわざ小のふこせこせををどくと。實地じじよかかり
よきとよきあきら。皆事こと熟じたるをのを及およさるさる多く多多く。妊娠くいんの先まへ
め伏定まづのこと。尋常じょうじょうの醫師いしかよりも坐婆ざははさきさきれものもの。が
おおれを。ゆきよ傳つががれ法則ほうそくあるふふをあら称ほす。皆臆端あくば。は
た謬あらうををかれふふもあらば。辯胎べんたいのの代だいをを物ものてて術じゆ。賀
川家かわいの産論さんりん。よび翼つばの書かきふうへへ記き。餘蘊よごんや死死くくる
生う。志しあらん坐婆ざは。哉あのの生う死死くく。學まなぶ。人ひとふははきて。
そくへ伏まづうれふふももののががれ。ちののああどども。どぐくの車くるま
も。一人ひとり一智いちちの究盡きゅうしん。ここも。やりやううたたののかか。子こ玄くわん子こ不ふゆゆ入いり
ふふも。猶さ臆あく断だん小こ誣またたるあせせかかふふも。ああらら。しののああどども。
も。今いま乃の世よ小こ産さん科か鑒けんととよよどどききののも。皆まそそのの流りゆうととよよくく。そそのの説せつ

小するもの多く。今逆産小對。鈎をもちひび。児をひき出し。或
ち母子とも小全うらむ。ひつれも。實か此人乃餘恵なり。辯
胎乃あゆを。我の著とも偽乃書小詳なきど。かくふくふくと
いそだ。たゞ参考小そくすて筆記數條を舉たるべ。まづの毛絃知く
後小あき代讀づたなり。

二月乃末三月乃も。免びろり胎をうのびゆる。その婦人乃翌早
いまだ起出されたり。仰尔卧す。はく手と懷ふく入て。うろ
く指頭小腹と按く。スモ。腰乃下。あくび。だく。ふそ色と
知る。がんものあり。癪塊乃手あくび。とへもる。う小異あれり。の
そ。ほく。よ。あらば。この候。と以て。驗んと。おきり。豫て。その前
日。お戒あく。薦す。若夜。中。小水。たすり。うち。候づ。一時許。も前

う。小廁。小ゆれ。はく。ゆれ。と一睡。氣のあちつたた
ら。こうとう。の。び。す。

乳頭黒き。懷孕乃證據。かならぬ。受けあり。經閉。かくもく。はく
かく。とのあきばかり。そのへ懷妊。を。乳頭乃黒く。かく。のりの
やう。それ多く。悪阻をやまぬ。おき。かく。お。う。う。う。う。辨。お。た
か。お。じ。と。た。ま。く。少。く。悪。阻。を。お。き。乳。も。黒。く。形。狀。を。の。あ。き。べ。い
づ。一偏。少。く。り。ひ。び。て。よ。と。鬱毒。蓄血。かく。乳頭。黒。く。かく。の
を。を。不。可。能。也。あれ。を。た。く。の。る。證據。かく。得。く。る。誤認。と。あ。り。
その別を。い。そ。ぐ。先。乳頭。の。黒。かく。ぬ。小。拘。ど。乳輪。かく。は。れ。が。山。来。み
と。大。き。へ。懷。孕。こ。れ。と。年。若。か。る。こ。ろ。は。く。乳頭。が。多。く
く。内。へ。引。く。み。く。あ。る。の。か。り。孕。と。そ。き。の。外。へ。あ。ら。れ。て。乳輪。

の栗起ごりあくられ。極きわ小心こころ戒さへよく不ふもよ必誤ひよふくろのれ爲なま。

悪阻わるしとぞ不ふえど。悪心わるいとならざな。たゞ嘔さきたゞのり吐ぬ食くも常つね小異ちがこと
かれを。鑿う師しあやめり。蛇蟲じゆうをよそふく。無益むえき乃棄すてりち
ふれあはり。あり。また悪阻わるしを患うなだ。たゞ舌眼したまなと爛はく。塩味熟しおみじゆく
物ものををかかく。甚まことにききく。腫いん出だて惱うなとのあり。懷孕くわいり少すくなくこの證しるし
ををみみる。娩身みくみををばくらばくらででりりの愈よぬぬりのなり。持もちせ代しろに得いた
ががひふく劇げき劑きを與よは。害さへななることことあり。坐婆ざぶももくくせらせら乃
事ことをを心こころ記き得いた。たゞのの懷くわい姪めいなりとと知しなららじ。必ひ妾めいあるる療治りようぢ
と受うけさせせぬぬやうやうをを離はなれはなりたり。

悪阻わるしををかかく。唾つばも吐ぬかかく。胸腹きみふくらひひたたう。大小便おおまへん乃通とおト快こころ
ららに乳頭ちくとうを色いろははののととく。懷くわい姪めいをを見みみののあり。ああままら尤お誤察ごさ。

とあきらめあきらめてて得いた。

懷孕くわいり三四月さんしよ小こなると。眼中まなこ平常へいじょうととちちのひ。さうだだとと。ととと
一ひとのの少すくなををななく。ちろききりととありたるやうやうふ見え。その白膜しらはののう
ばくふふあらら。ああとと黄きななれ光ひある。やうやうふゆきゆきるもの。
その産うぶ必ひ過くわかかく。母子健めいしけんかかれれののああききどども。これれ一ひと應おこふふくくままの
ららぬぬ候まわなり。

かくえかくえれれととだれだれゆゆ。乳ちくをを吸すひひややかかり。喫くくくびびと
小こ疼くわい感かん知しる。ぬぬくくららかかり。小こ痒かゆかかるるををのの必ひ懷くわい姪めいなり。
三四月さんしよをを經行ぎぎやう滞たまたたる。下したんんととももとと死しふふも。小こ腹はら小こ脹ふくらぐ
れれある。多おそききを懷くわい姪めいととるるああすするものものあり。血塊けくゆゆくく懷くわい
孕くわい四五月ごんごよ大おほかかる。一年いちねんああすすも經行滯ぎぎやうたまらら絶ぜつふふ。左さふふの

らぬものなり。

子宮こくノ中なか水みず液えき留とど蓄たま經き行こうとすり。懷まつ妊にん乃のやう小張おほりも
のあり。あもあもたまくまく小あれ症きょうなれども。はづひをとれどものあり
ぢ。がゆく須知すのえ金かなこゆなり。

おり外ほかかと辨胎べんたいの候きとも爲なれどものも。賀川家かわ家いえ乃の書か小詳こよあ
ざと。いづき乃の候きも。そきぞせかとひくひくるを。己おのが成なる乃のくも
小誤ちよき。疑似ぎきぬりの代だいそと定さだく。人ひと小笑こわらす。あやあれふふ
き。一端いちばん小こく心得こころががかねかね。事熟じじゅくのけちうも。あらがち小腹おなか
ををとススと證あてををと聽きどと。たゞたゞ小こくなく懷まつ妊にんなるあつてて承うけ知し
その造詣のうよふりううくも。筆ひ小こも辭ことふを述のべづづたこゆゆふく。たゞ
哉哉の入りん目の妙めう契き小こあるあるなり。

鎮ち帶た産さん椅い利害り害がとと

鎮ち帶た乃の胎たいををまたぐれあまぐれ。後ご藤とう艮えん山さんをトとめくくとの説せあり。
然のととも人ひと情じようり廢あががたことこと代だいひれひれ。確言かくごんあく。そ
の子仲こちゆう人ひともとのことを叙述す�じ。文ぶんあり。その他小こと鎮ち帶たの害がを論るせ
ーーのありーー。そり後ごのううふかくかく。賀川子かわ子こ子こふりうう
てて。自己じの發明はつめい。專せんその説せををうへ。產論さんろん中なかその害があるこ
とと議論ぎりんト。帶たを太おく用もち。もも。その理りも至いた當とうせることことなれ
ど。世人じんじ信疑しんぎ相半あいだく從従ざれとの多おたも。舊習きゅうしゆ乃のもも。づれ
あく代あらののトと察さーたる。艮えん山さん乃の遠慮とんり。あくふいづづ仰あお。す
まくまく帶たの害がををことある。考か全ぜんく坐婆ざばののへふを
たたみみ。それ布ふと縄くのやうやうか交まく。たとくく新しんを束つかるやうやう小ち力ぢ小ち

ぬうせく 繫——。胸下腰上を紮たれとのふのあり。後藤家
小ゆやう小ゆろく全腹を纏たるものかあれあとな。この鎮
帶のこと。往古神功皇后三韓退治の時小始と世小言傳と
も。古記小石を押たすことをわざと。鎮懐石の名うあれ
ど。今乃腹帶とすも。の小別りものなり。鎮帶のこと。——
アたる。建禮門院御著帶。がくび平の政子小帶をぬわらせ
れこと。かど。のふも見え。そのあくつう貴賤あくゆく。懷孕
五月そくくも七月小ゆくも必帶するあくせ吉例小して。布
巾乃長八尺なれ线用ひ。全腹をひたゆあくの治習小もあく
なり。そのむの——もいの小ありけん。侍賢門院の懷姪小帶と
さまでこそ後藤家小論ト。亂離の際たとえば。こよと用ひて

腹氣を助らきたれたりとのゆ。左もある。右を小さへあと。
亂世なればとく如何。あらんはこの帶の古き例とも。きりの
も。ほくろ物語小もあれば。源氏の寄生の巻小。いゆうぶのと
たとひたまくる腰のちる。小とあり。またこれもたまふある
乃帶乃引ゆをとれたれあと。鎮帶のあくとあくらう
知れども。腹ゆ。腰代はくひたる帶。衣れうつりた
うふととえのねやう小記——たるも。いゆうとひくとあとな
る。づきゆも本邦の古書小載たれども。之とゆる。その製
ちたまくの全腹をぬとひくとあたらのふく。あも。試用
く腹力を助けるたより。小一。ふもある。を。あく。を俗間小
鎮帶ともすれ代え。孕く月を。うきぬる。小ち。ごひ。子宮

逐次小腹脹て。腸胃を下より推排。胸下小餘地無とのを。ん
なれ坐姿乃所為。小はくせ。胸下絆縛禁。そのうより壓迫せ。
ちのうちからび人乃體を裙襷裹足乃やう。小あくろえく。脚を屈
て寝ざむ。胎児足を母乃股へさへ。あむとのぞかふ。諭へ甚きん
壁小膝伏たけ。股小蓐子をうひかぎて。是非とも小脚と伸さ
せぬやう。小さもれたり。かく上下よりこゑ絆迫窘くら。窄隘腹中
少く。胎児至側。小なうぐもくふも。且上も飲食乃運化とさ
へ下も兩便乃通路妨。暗小産前後乃苦惱となること。絆さ
らざれ。あきはへく。うねへたふものか。うなり。産後乃帶も右の
おも。産おれやりゆや。力ぬのせ。小繁ゆ多小胞衣を帶り。上小阻く。
いの小拽と下ぬうち小期をのぞ。子宮乃口絆用ら。遂小ち

臍帶を拽た。驚愕ある。あたし。皆坐姿の朱錯。小よ色ぢう
すけり。そり佗畜血崩漏。眩運など乃病の發るも。この帶小よ
ねきの多け。帯と去く用ひざる賀川家の發明も。その理至
極せる。あと小ちあるども。數百年乃むのうより着帶といふ。お
と俗習となりた。然やくよとくとその事必行つ。筋くのじだ。お
うけくからう。我邦小むうよりうき絆用ること。かくめ小のう
あく。腹上胎位乃正中。腰へうけ。纏たるものある。と
も。大畧小推知教也。越後えちご小傳こてん。あくある。小もあ
らゆど。あま不事實。小試こころる。その全腹。とはひとひたらし。こゑく
ふうて腹力を助けるた。多くとなる。あく。多く。熟考。一向小補
なく害のあるのからう。のうりくたく。星霜を歴て。その事

の廢^{スル}事^トも無^カれ。今^の産婆^ノ所^レ為^スと^シ。たゞ^思習^ト
せ^まうひ^テの^シが^シか^ア。ゆゑ^ニ小^今予^ガ用^スと^シろれりの^シ。ナ^シを
良山^ノ說^シ小^さく^シぐ^タ。布^ノ軟^ク薄^シの單^ノを^シちひ。械^ノ全^身腹^を
お^あひ^く。左^右より腰^へは^なく。右^も左^も左^も右^も前^へ
そ^う。其^の端^を両^方へ^をま^すむ^とぶ^かと^なく。必^シ緩^じ急^きらぬや
う^シ。便^{べん}服^{ふく}帶^たと^シ看^タた^まい^シ。或^も一^度よろ^しとも。六七月^の間^まで腹^を
き^きの^も。單^ノ布^ノ絞^り下^をも^する^も。ナ^シか^シ胎^を正^し
中^を纏^まや^う小^ちち^もあ^まなり。う^れご^くく^少く^と。さ^く兩^脚と^ゆ
や^の小^伸し[。]手^と身^を小^施す[。]下^を小^たき[。]胎^動を^か不^ゆる^と。或^も先^も上^に
小さ^せく。そ^うく^左右^へ轉^か卧^し。と^て飽^ひ食^と懶^せ放^なる^とい^ま免^め。
房勞^をほ^しみ。思慮^をも^うた。身心^をつのま^ね不^じ小^體を運動^せ

て。両^方便^通利^か心^休洗^け。夏^も暑^と避^え。冬^も寒^と禦^し。故^め故^め
き^小按^え腹^をせ^も。晏^く小^藥と用^ひ。產^前手^あく^とと^あく^成爲^る
志^め。一^くれ^ど小^ちち^あり^帶。胎^の倚^い側^を防^ふ。便^しと^も
产^ま前^後の患^をな。必^事故^あれ^どな。帶^を廢^す。も^う
ざ^まい^ハ異^議を起^む。人^も危^き。妊^婦の意^も穩^た。胸^の下^を小^く繫^ひ
也[。]胎^が衝^か胸^と突^き。の^あれ^ども。あ^まら^うあ^まり^小腹^帶。
ゆ^き。の^あた^らぬ^あく^ども^なり。牛^馬など^の孕^しと^な小^腹帶[。]
た^れた^れも^なれ^ど。胎^が轉^か胸^のや^りた^まこと^とき^う。也[。]
う^き。腹^代滿^みの^び胎^の肥^太。產^まゆ^れあ^くり^ひな^らも^せど
も。狗^猫など^の數^多り^子と^生と^れ。ふ^くり^出る^ゆく^{もの}を
え^ぞ。は^く股^へ脚^を没^い入^らく[。]歩^くた^れため^ーも^な。た^とく

身を横ヨコ小コトコトと。持の横ヨコあるもの倒ボロう手ハンドを得た
る天然テラジからカタ害ガタある事コト多く。ぬヌ狗ウサギ猫ネコあエらハ難産ハラシある
も。林簾リョウゼン小コトコト高タカシ落ハラシ胎位ヘイリを害ガタたるものふくある
かれども。鳥獸トリモノを人ヒト小コトコト比ヒスべハ皆ハモニの自然セイジ小コトコト任ハセるゆゑハモニたゞハモニ産ハラシの
福ハラシを。人ヒトよヨり困病クンビあれハことなし。人ヒトもなまゆハマヤの小コトコト黠慧ハマツキあるゆゑ
小コトコトやヤをモべ。天然テラジ小コトコト恃ハシメ畜生チクジン小コトコトどうだる害ガタと招ハサムとある小
鎮帶チントクも。陣痛ジンウ至ハシメたハシメて死ハシメひハシメ。先ハシメて除ハシメ産ハラシ小コトコト腰ハラシ上ハラシ小コトコト腹ハラシ中ハラシ不ハラシ
りハラシたハラシたハラシ。ゆハラシび布ハラシと二ハラシ小コトコト胸ハラシ下ハラシ腰ハラシ上ハラシ小コトコト腹ハラシ中ハラシ不ハラシ
をモ左右章門ハラシモドウのあハラシへハラシけハラシ。寛ハラシを緊ハラシらぬハラシ小コトコト腹ハラシ不ハラシ。こモまモ
せモの益ハラシあるハラシとモり。この帶ハラシを自產婆ハラシ乃ハラシ為ハラシとモろモ小コトコト委ハラシよモけモ

嘗ハラシも。たハラシ胞衣ハラシ下ハラシぬあハラシひハラシ。決ハラシ一ハラシ帶ハラシさせぬハラシ。胞衣ハラシ下ハラシて後ハラシ
も必ハラシ帶ハラシ益ハラシあれハラシけモ。惣ハラシ臨產ハラシ小コトコト身體ハラシ寧ハラシ急甚ハラシ。血脉ハラシ
振盪ハラシ上ハラシさんハラシ下ハラシも。子宮ハラシひらきハラシ。胎兒產門ハラシ小コトコト臨ハラシ。その苦ハラシ岡ハラシ
うモからハラシぬハラシのが己ハラシ小分婉ハラシとモり。胞衣ハラシも尋ハラシ下ハラシの後ハラシ。腹裏ハラシ
もモ小空洞ハラシ小コトコト。寧ハラシ急ハラシゆモはモ。振盪ハラシやモ。上ハラシ迫ハラシすモ血ハラシ。道ハラシ
とモて下ハラシ逃ハラシんモとモるモ。たモとモてモ汰馬ハラシをモろモしたモ秤盤ハラシ。一方ハラシ
小歌ハラシんモとモるモがモく。この時ハラシ小コトコト。脛運ハラシ崩ハラシ血ハラシ衰證ハラシ。あハラシれ
あハラシあり。今ハラシ帶ハラシとモちひモこの空洞ハラシ小コトコト。胎腹ハラシをモのほモ。
纏絡ハラシて力ハラシをモ助ハラシ。おハラシいモ。おハラシいモ。おハラシいモの益ハラシをモ得ハラシ。あハラシらモ帶ハラシ
乃モ用ハラシをモ少ハラシらモ。おハラシも坐波安ハラシ乃モ為ハラシみモはモ。おハラシくモ腹ハラシ中ハラシ
とモアモくモ。胞衣ハラシ下ハラシざモれモのあモ。その出ハラシ路ハラシを阻隔ハラシの害ハラシ大ハラシ

王子宮をはと緊縮らどく。下盤に殘血を滯のまからば。腸胃の傳化をも妨げ崩血眩運乃症も。あきよろく發をあきび。賀川氏乃よりおとく。その自然小腹うせ。一向小帶を来て用ざるを尤優ことなきどと。あきよる人情のふりの小更衣のまづるものなきぶ。予が今いとところ小治べし。さももぐその益ありと害へなく。俗習を改て世間小懃む。折中宜を得るをのなり。はと今用るとあらの産椅乃製。いづれり世小もとすうたうたうのたううちら。似ど。やれあとも異邦小を聽及も。全く俗家乃意料より出たるをのふく。産後乃出血代金創とかなし。あと小心得たるより乃所為。明す小知れたり。邊鄙ふちや敷設為もかれども爲ある小產婦乃復本心の爲り速かとアキビ。その利害自知る爲

きあひなり。近ころ小梅村ふく一婦乃路頭小産一て。哉の児を水ふく。湯浴懷小抱。そくその旁の家小立。湯丁盞を乞く。喫うれぬ。小健歩て行うり。代すのあうりスケズれ。のあり。近轍少とうみのあれ代きけり。産椅のみふらあらむ。混沌之鑿小うりて。害を爲あと。この類世小多ことなり。産後も必ず玄子乃説小從く。高枕小右側卧。小さむれをよしとも。産椅も決く。用ひれとの小あらび。うれび産後乃惱も少。遺患ありとりども。治術を施しやまく。大小利益あるもとなり。ゆゑ小產論小の産椅の八害を示たり。その八害とく第一也。産をまぶ腹内小へう小空洞小なる。ヒのと。はく。起步く。産椅小拂く。ゆゑ小。やく。ヒも色ハ眩運鬱冒疵を發をることあり。ニシテ。産椅中小跪坐く。横

小臥さわされゆゑ。小崩おと漏あふ脱だつ血けを發はしやまく。三さん少すくな産うぶ椅いす中なか
ある。之のかれ證きのう發あつても。之を救き急き術じゆを施ほどこし。四よ少すくなひさ
跪ひざ坐すわりゆゑ。小腰こま脚あしの轉運てんうんあり。やまももをよび脚あし痺しび痺しびせせ
なり。久ひさ懶けなりゆゑあり。五ご少すくなゆゑくと寝ねりゆゑ。小精神こじんせいつ
のゆゑ後あとの疾めとなるあとあり。六ろく少すくな經脉きみやく遲滯ちりどり。餘あま血け下くだり。
蓄たまて塊くずとなれるあり。七しち少すくな脱肛痔だいかんし漏あふ發はしやまく。八は少すくな跪ひざ
坐すわりゆゑ。小產椅うぶいすを出だし後あとをな不ふ行ぎ歩ある進すすみ。起居きき自じ
由ゆをよらばし。自然じねんと懶墮けなげ小こなりやまし。その他太お便祕結べんびけつ。或
も下利げり肩背彈急けんばてんき頭痛とうつう面熱めんねつ。飲食おんじき乃の消化こしあま。乳汁ちゆの
質しつを衰へど。乳出ちゆしゆなるを缺少けっしゅなし。或も寒さむ時ときも寒さむ小こ怯えやまく。暑あつ
月つきも熱あつかなえで。あまる子宮腫しん及およ癰はを發はし。或も瘡病うようび小こ便べん

不利ふり腰こし脚あし腫いん。麻痺まひをより。癱痕はんこん乃の因いん代だい釀な。生涯じ涯乃の患いと爲乃の
類るいを。この產椅うぶいすの害が小こ由ゆ。多おうゆのぞへほほりり。多おうゆ小こ子こ玄げん子こ
乃の辭こと少すくなヒ。この術じゆを奇きなりと人のひとのひとと。有あ小この優すぐるあゆゆも
あらだ。たゞ產椅うぶいすを用もちりゆ。是まの翁おきな乃の大お大お
功こうも。產椅うぶいすの大害があれれ。伏ふたて。小こ知しなり。あま不ふ產論うぶりん小こ參さん
考こう。通曉つうりょうあるあるれれあまなり。

胎たい乃の倚側よきそくを整復せいふ。此術じゆをもも

胎たい位正せい。うらゆぬ。鎮帶ちんたいをももひよ胸むね下したを禁き。脚あし屈まげりゆゑ。小こ由ゆの多く。まま房慾ぼうよくの慎まめに。起おき臥よ屈まげ伸ののまとまのう。ままあらこも傷きず食くをも小こ由ゆもあり。或も宿しゆく癪は。まま顛たん撲う。まま高たか。まま墜おち。まま倚側よきそくをも。いま下さび胎たいのよ倚側よきそく。

クセ小たりく。整復てとやうへはと倚側、とのなり。こゝより
ク腰脚引けり。甚きも起あせなれど。腰脚も。脚弱。痔疾。小便
秘閉まひかと發はりあり。産小臨おもい。児の手や脚を先出しゆしゆ。或ハ尻しりをあ
らちあら。頭顱あか産門さんもん小たりく。産うぬ敷ひら乃類るい皆胎位おなかの正ただ一いら
ね小すれをみなり。ゆゑ小五六月ごときむのれちも。日々そりくあらば
けく。ちくくちくくを倚側よせあらば。必正中まことへ推おがくおてかくかく
ききあとなり。病家びやうか須う知し小記こきををあとも省あつせんく。こゝこゝ小ちたこちた收生しゅうせい婦ふ
のたゞ小整胎せうたい乃の術じゆの簡便かんびんをの三さん條じょうを載のるの。子亥子こくにも胎右おひだり
倚側よせややももととひたひたども。左右うしゆともとも小かこかずれ、との小さ。右小
のくらうだらど。燥尿さううを分わけ排はらめめりべど。そもそいふら
ん。整胎せうたい術じゆ乃の木要もくようも。胎おり下しもへまづまづたるを上うえへ挿さ舉あく。

よも。のうのう正中まんじゆうへ推送おきゆう意おも。外ほか為な爲な事こととな。ゆゑ
小指こしづの意おもを得いたれ。後あとふも。己おのの意料おもを用もち。いのやうゆゆと行ゆふれ
ああり。このあありあきらきら。惣そく乃の手て術じゆに定さだめめある。ゆも
ああり。時とき小臨おもいのやうやう小こと便宜へん小こ從つ。宜よ。うそそ。うそそてこ
説わざきわざととやうやう。ああ整胎せうたい乃の法ほうといいても。婦めと仰あおか卧おせせ。ゆも
くと胸むねより腹はらへななくくある。その心こころのうちうちへやうやうかか。或あるハ兩
指さし頭かしらふも。婦めり脇骨わきがく小こ沿そなく。左右章門あらわらのあありあへやうやうかか。ゆも
はた股もものあありあくくも。按あん摩ま。後あと小胎おり倚側よせととくく診みて
術じゆを施ほどく。坐婆ざぶ婦めり左ひだり小こ坐すくたらら。下げ部ぶ小こむむひひ。坐婆ざぶ
兩手りょうしゅ伏ふく。婦めの小こ腹はらり下しも横骨よこかり間まへまづまづ入いく。胎お翁おきな上う
のゆくゆく挿さ舉あく。左ひだりの手てとそのまま物ものををかか。右あの手て小こかか。右あの手て小

て。胎の右へ倚側（ひきそく）を用ひ。四指頭（しゆしづのまへ）を用ひ正中へ推送り。左へ倚側（ひきそく）たる掌後を用ひむすゞと正中へ送り。その後ゆくと胎の左右上下を按摩（もんさう）。とゞ々支障（しやうあう）とのゆゑに小のつづく。はゞく両手をうなぐ。横骨間（よこいのあい）小のとて整頓（ひきなまき）。とゞ々術と施ふる。がのく腰小力といき。指頭（さしあて）をゆろぐと車（くるま）を行づくなり。必く指頭（さしあて）のみかく力ぬ。せふゝくも。がとくやうふち施さざれり。かく得べ。胎大小下て。横骨間（よこいのあい）小指頭（さしあて）がまわりの。婦の膝（ひざ）立（たて）りむせば。必指（ひし）らむ。かう。たゞ術と施して後そのはくふあぢらく寝せてよ。また平臥（ひらぶく）ひまならぬものは。相對（あたい）坐り。生嫗（おとめ）両手と婦の背へまづく。前腹のうへ撫（なで）。



摩（ま）こま數十遍。その心得（うなごころ）。腹上（はらじょう）へなづくありむれやうふゝく。持（も）の後両手の大指と肋骨（あびこ）を沿（たど）。章門（しょうもん）の方へ按ふ。さく両手を仰むけて。横骨（よこいのこ）をくまへ拘（くわ）。その倚側（ひきそく）たるこのたた正中（まっしゆう）へ推送（すいそう）。前の意味とかなし。下より整頓（ひきなまき）。両掌後を用ひ。高とところより墜（おち）。はゞく轉れて後胎（うし）を大か倚側（ひきそく）。その胎（うし）を倚側（ひきそく）へ成上（せいじょう）。側卧（そくがく）ふさせ。收生嫗（うじめ）を持（も）の後へゆづて。己の片足（かたあし）とのぞいて婦の股（もも）を同へさへ入る。婦の脚（あし）をかの。膝（ひざ）をうけ。手成股（うし）をすくめて。下より胎（うし）を挿舉（さしうき）。手も上のまより正中（まっしゆう）へをへかられやうふもよなり。擗揀（うち）をせし。大小倚側（ひきそく）する。正位（まうい）ふう角（かく）らむると。このまく小産のけほくことをあり。うひく心得居べ。あは

と行ふも鎮帶の必解脱。たゞの小正位小復すれ成診く後。まく
く全腹を纏裹こと。初よりおもく小ちべー。持の胸下を緊繫
ても。帶乃たら小胎乃やくとけも。おも術意少く知る爲れど
となり。

子宮の位置を探り知るにあらずと

坐草前か。預胎の順逆横偏とぞり。おもび産の遲速難易を知得
小も。探宮小あらざるべ。たゞのあるあらめりひづ。陣痛くびく
たりと。子宮の陰戸小臨ぬうちへ。産出するものがあらば。子宮已
小産門小臨くも。支障ものあれはく破殼一たるりのも。却て娩出
べれ便を失ひ遲延ることあり。そく然て紀ゆへりのヤド努力するも。
たゞ疲勞減ずむとたゞりかく。産出こよも、やく。努撃の怠ふ却て

胎を倚側とする。横小坐く。よく困難あり。遂小母子
の命を頑てとあれがゆゑ。陣痛たびくならずと。自然の努撃の勢
さうんかなむまくも。娩期小ちくぬよとよく合點させく。産婦の
意を落つせ。努力とりそのせぬが尤す。ものあきどと。坐婆へ預そ
の娩期を知り。自己を安ら身を勞し。無益のあく小隙あるあくわ
ら。坐草以前小探宮が肝要ならとれど。妊娠五六月より
も探て不ぞれをのちも。苦悶にいたるゝも。羞て厭
とのなると。事なれどきふも。坐婆かを診ずれどとある也ども。
腹上より察へぬるりのも。これふれべ必ずその實を知得あきも。
坐婆もゆくとく心得おく。産科あき。事なれどとある也ども。
よりてら。羞かとも厭げきも。男子乃産科醫も探宮と

臨産乃第一義として必有をかよりて預遲速吉凶と察し知りと
からなりたり。その法も陣痛とびくなると即ち産婦と坐せり。
あゆの體へ靠りらる。坐婆の右ひの手へ綿絮やうれどものとくみて
のせ。そまく肛門をうけ。陣痛のる。おとく小提举て。肛門を推す
きふら。胎の會陰へたづけ。やももをもとめ會陰の内筋を損じて
る。患れさせく。そのうへ児頭の陰戸へむづりやうふともる。あゆの
くもれこと尤す。陣痛次第小便のり。腰間をとくなりて。裂がごと
き痛とかがえ。周身熱をりよほ。眼中小花伏え。妊娠自身小陰戸の
うちもまたる。あくもとる。ごとくにふり下りても。その產ちのた小あ
すと知り。この肛門をうけ。提举をらふ。綿絮をそそくそめは。小
捨て。まづ中指を用て陰中を探る。小胞胎已小産。小のぞく膜

中小水漿充滿する。指頭ゆくむつて。推さる。そのやざる。音
の小知る。漿水下るなれども。妄小胞膜を突破す。漿液を洩さる。
なる。ゆくとけらせぬ。そつて小あゆ。をもとめて衝破る
べ。自然小委ねと少害あることをあるとのたむべ。必その期りるとは
つむれことなれども。たまも破れ。苦痛の堪えず。との有て不得
止。破く水液を逝す。賀川家小も中指食指小も抓く破とく。も
つよく脹る。指先みてむづく。推す。をのり。くも破る。との少て。抓
ぶべ。破ぬといふ。努張の至ぬあひ。小破れ。胎乃陰戸を出る。小苦惱
多く。支障とある。ゆゑ。小尤緊切なる液少く。この物さく洩ざるあ
ひ。あうべ。のきのきの倚斜支障も。滑脱て自然小跳出る。とのあゆ。分

娩の助となるべ。第一の至寶なり。そよがくあらふある。みて天より賦與
らころの具あれ。いふを小子宮口の陰戸小臨ことかくて。胎傾くまに膜
皮の破くる。その聲の外へ聞る不どめことある。りく破くとも知れる。
水液無益小洩出のとならむ。胎もまたく倚側。またく横骨小竇うれ
て出る。いろくさゑの困難をなすと小のそれがいふ。胎位正うら
ば陣痛ちげく。下肛門へ徹痛。あたあひざ。努力とのとくこと。尤可
くらぬあとなく。たゞ大便をふも。時ひらねば。の不と努力とも
出る。きの小もあらぬふくも揣量をべし。ひとさん俗人ち狼狽やほき
のなれ。坐婆の心得よう。かくねば。それがくも小大なる苦痛を
増むることあり。陣痛あり。坐小半草志むべく。よくきの
期と認ふ。あやまつたくなり。たゞ一陣痛ふく。そのまゝ小産る

ことあり。もと希かることふく。さくくに坐婆の心づけ。举家の
驚擾をもぐる。妊娠の意の降。やうふとおれことの肝要あり。左なれ
ば。たゞ産も滞うとも。産後小眩運崩漏など。の症發す。おりひもよ
らぬ急遽ふあることある。皆坐婆乃過か。探宮小先中指を用ひ
ふも。餘の四指を屈せし。中指と用ひふあらゆ。指頭短たりてくま
あし。食中二指と内ふ小をかねト心得あり。二指とのくも。子宮口已
小臨たる。と知り後とふと。子宮口二指をりく。分娩の期たゞ不遠
し。三指と内ふりふと。己小婉んともるの候。四指あらべ内らふ
と。ふくもくや。産の期のまくとねふよべ。と。子宮口ひく。開
きぬるをの。子宮口乃外邊を中指頭ふく。循旋させ。硬糞の肛門を迫
たると。肛門を指末ゆく。圓轉せし。やく。便氣ある。とかうト理小

て。おのの婉期と促小尤妙なりと。子宮已小用するをいたし。全手と内る小
小足るをのなり。殊掌の纖軟ある半婆への術と施小便宜。その姫婦
も男子の産科小委するやうなる心づみをあらねば。予が半婆小の術
を傳たとあり。これがためなり。膜ののまく破ざ敷とのへ。蟬びれたの絹小
水をつみたるやうなる手あく。下く軟なまく。指頭がさすとれと凹りの
ぞ。児頭も硬くて髮あまべ。抓く。それべつてふ辨別なり。児頭已小臨をの
も。その頭と指さむ。小く摩旋。また。むくへとく。推やするやうふを
き。おのの勢ふくよもやく婉るをのなり。子宮の倚側。藏府の推排
て。倚斜この一方小あるゆゑ。左とも右とも定まつてひざをとこなり。
臨産前より腹上より按ても。妊娠。妊婦。その傾く。小胎動を知る
きのなり。これを整復しても。やももをとく。傾角もく。などひ正中。小あ

るも。陣痛の努撓ふりて。また。倚側こともある。とのなり。そ色も子
宮口入産門小臨。それ。首。そのそぐふく。正位。小復。すく。もあり。
児正く。翻轉し。頭を下ゆて。産出。貞勢を得ても。子宮倚斜。その
口産門小向ざる。それ。と探く。もその口を得ぐ。その傾く。伏あ
らの。じゆ知か。あらねば。指と及こと難がゆゑ。その以前。小胎の倚側。伏あ
と。胎動を知る。と。伏く。認か。きく。この時の用。小そよぎ。胎の倚側。の
この腰脚。小寧急。と。おがく。腫ある。もその。ふねやく。腹状もたう。小知
るものある。倚斜の明白。あらぬ。もの。ひかられども。探ざま。知る。たと
ある。子宮口の前後。左右。りづき。傾側。する。やとか。を。う。その口を
りむる。も。猶。う。死とふく。子亥子。う。ことを。不治と定め。とも。ふく
探。ば。心得ら。う。もの。急決。と。婉。う。と。て。捨。づ。た。と。に。あらば。このと。れ

小へその口代肛門のうへ向く。が多々き。陰戸の下邊小沿て手とさ
入指頭小心を注く探す。もむき。必その口をその吸小得べ。その口代得
くらば。指頭とさへ入て。産婦とおの毛が肩へ靠く。す。小脛とおとへはけ
さす。毛やうふをとく。その毛がみかく。子宮の口陰門へむづ。あ。り。努
拵小よりて。子宮の下墜甚く。指とその間小内ぐれをのへ。妊娠とそ
胎の倚側する。小卧一も。手と席つつけ蒲伏せ。むき。胎の重
ゆく。寝住うち。小陰門や牽縮。いふふをとども出うねる。或ハ手足を
先出。ほく背もく。腹を陰門小むけ。或ハ尾を出との類の難産
も。悉皆努力とひ。坐婆の過小よりもの多い。そよごのとへ下條小

りうて。こゑの救の術と。下小説解て示す。それども。そのそとあらう。胎
の倚側と。みせだ。あらう。子宮口の必陰戸小向。やうふさく。されば。困難の
患ふ。う。ともなく。必過。とある。へらだ。ゆゑ小陣痛。きう。とも。晏小坐
草とひそごと。制。の毛がたな。か。世間庸愚の坐婆。心得も。うれ
鎮帶。ゆく。胸下と縛。紡て。そのうへと。拗。せ。脚と屈く。卧へ。下よりる
壓迫。つひ。小へ胎を倚側せ。今す。坐草努拵と促て。いは。小苦岡。再
産椅。小跪坐。その熟睡と苛責。と。こゝ。自然小背吸爲の。なれ
ら。多く。妊娠と。て病ある身と。う。甚き。横天せ。む。そ。陰思の報
も。皆己が身小及。び。と。も。覺。ど。あ。わえ。が。不。愛重の人命と。口腹のた
め。小難。と。年々。ふり。た。も。愁。とも。痛。い。も。よ。苦。た。の。う。だ。り。下さら
ど。や。り。一世の坐婆。のまう。と天道と。おとす。職業の。あう。そ。の。ふ。と。ぐ。ざ

る。工成知必く固執をもとく。予がりよきうと細心小味て。こそ成日用の事。實小檢べ。小補なきやのべうべ。

坐草分婉かうび胞衣と下し蓐ふ臥しむべなどと示す

陣痛のとれ。手の十指頭小脉もぐく應と。間もなく免身ると知る。これを見るみへ坐婆の五指頭と孕婦の五指頭小あへせく診べ。さて陣痛ぶ腰かうび肛門へ次第ふ及。眼中ちらくして。腹も裂きゆくやうなる。痛あまりくも。猶うよきうるもの。前条からよせう小探宮ふく診のくうじだ。どうく腹へ手をやりて。その倚側いきわきへりやりうやとくうむぎし。努撓かうりま正中せいちゆうふあり。胎たい。その期ときかうびく傾かたむけことあまび。よく診得て。そと一ふても倚側いきわきたることあらば。腹上うつも前の整胎の意と帶て。こまく成正中へ推送ゆうよまき。それなりふうまことあり。兒頭已小產門おとつどへと出るときふく。両手と仰て。

大指と兒の肩へは。餘の八指と平ふ兒の胸へあて。指頭さしあてをそろひ必肋骨と指頭さしあてかくらひをねやうか細心さいしんかくらへらう。陰門の上邊へむけくとを揃出そろはとう。そと下へむけくひきぬけべ。會陰の肉薄にくぱく脆へうて傷いたやまと。找落さりあとすらもよれども。己小頭こめがしを出たるへ。かくらもはくあくうらも。あくらう出る血と兒の口中へ入ぬやう小心こころがけくよ。胞衣おんいひづひで直小下べたをみなれば。平產ひょうさんするべ患うらえられども。とくに滞滯しつせきくらべ。これと産門までねだ出し。志士らしくさうあらかじ。さうしたれときふ手をくまき。か速ふ下るあり。胞衣おんいのくうてあすく小遲疑こすうぎうちみへ。子宮口を閉しめ。名ふりふる揃そろはと下さげた。前ふもりくるごとく。世間の坐婆のやう。小兒の娩出まんしゆつるとそのまくふ。鎮帶ちんたい少て腹中はらなかとくらへ繋つなて。胞衣おんいを帶つすり上あく

へ隔絶たるへ。さう分て下さる。鎮帶ちまきゆゑとくあらもつゞづがすくのせふ
臍帶おちばとぞくへく揃断そろきりふつゝ。そぞくかざらくことすくあることなり。
懃まごて胞衣えと揃出そろひだを少すこ。胎たいとちぢひて。陰門いんもんの下邊しもべへむけくそろくと揃
出そろひだ。もそればひれきる。おきあまび必上邊ひじょうへむけく揃そろひだと爲嚴制きげんせいるも
よ。その汰た。坐婆ざわの両手りょうしと疊のうへ伏ふせて。頭かしらと下げ兩臂りょうひを地じ小據こらす両手りょうし
大指食指おおゆめくわと用もちてそぞくづ揃出そろひだたる。そのとと小指こゆめ小纏ちぢみ。揃そろひだと小
臂ひをうのせて。指頭さめゆくあらひく揃出そろひだとなり。臍帶おちばあらへ出ひだをそぞり
たる。左の手ひの食中一指しょくちゆういつと臍帶おちば小治こはて陰門いんもん中なか小治こはる。胞蒂ぼていのと
そろひだ。胎衣えを志おもす指頭さめ小治こはる。右の太指食指おおゆめくわと。その左
の指ゆめの表おもてうけて力代ちから加よ。逐次よつしち小左指こさゆめをもくら。もくらみゆめのと。両
三次さんし小こへて胞衣えりぐる。胎衣えもくらと子宮こみやの底そこがある。そびかはりと

を。倚側よのきことことある。女めお揃そろひだく臍帶おちばと断そろひだとあり。軼強けつこうりのい子宮こみやを
ぞく小ちい揃出そろひだて。惱うなとなることなどある。皆坐婆ざわの術じゆ小こへくらぬくらぬゆ
ゑなり。坐婆ざわよりこそ小述こしゆ趣きを心得しもてての後のちも。その手ての柔軟やわらか小こへて纖
きせんのへ。指ゆめされよも。全手てに入る小支障こしじょうなたとを。胎たい娩出ひんしゆつてまもる
く。坐婆ざわの右の全手てと入いく子宮こみやのうちと探さく。胎衣えの取と在明あきらく。小探こさ知
るべく。モー子宮底こみやのそこ小こ滞着しそうて。もくらひ。そのなりとも。この向むかい小指こゆめを
入いく。あひをもく。指ゆめの向むかい小胞衣こひをもくらひ。掌てとも不めく。外ほかあ
る左ひだの手ての臍帶おちばとぞく。指ゆめの向むかい小胞衣こひをもくらひ。再手またてと子宮こみや中なか入
て。襞積ひつせきのあひの片膜凝血かたものぎんけつなどある。指頭さめ小こて探さりあらへく。そく
出だきく。片膜かたものといふ。冒膜ぼうもくを児の衝突ぶつ突した小破裂さくはり。小片こく。偶
ゆの児頭こどものあたまを冒あて出だるものあり。のう類るいのものを子宮こみやの襞積ひつせきに

あひざ小らめく。そのまふ出づとべ。月經不順。蓄血崩漏。腹痛。寧リ急
なやの症を患る因とあり。後日の害を為ることあるべ。どう除少んもく
さむどと。児生下くまもたく手と入るかわらざとべ。施ケテ行ひて
し。やゑ小尋常坐姿のぞとれ。後術とくろくろ小こゑて。胞衣乃下
ぐれりのとじれられへ。胞衣下ざる症太要五あり。その第一。胞衣子
宮口ふつゝて。上より洩出する血と盛く。底ある囊のとくへ小あり。下で
來らざれもの。臍帶とつゝて拽きて。重患と招ことあり。やゑふくの
この胞蒂のとくへ。臍帶と拽きて。重患と招ことあり。やゑふくの
ごとくの医安小拽ことあり。その臍帶小沿くさへ入る指頭ふく。胞衣乃蒂
のとくへ。便宜ふたうへ匾塵。その旁小空隙と得。蓄血。その手筋は
たえてきてるあり。さて子宮中少なげた。血あらへつねうと思ふた。

両指頭かくと手づて。前のやうり小拽出せたり。第二。胞衣をく。子宮
口ふたきおり。崩血などふなうんのをもるやう。その胞衣を拽て尤速
あらざとべ。婦の命と殞とあとべ。全手と送入。探そらるがく。前小
ゆびとくかく手をやくうに出。あく崩漏をさせ。術少て血止
止るやうふしてよ。ちくそきを行づとべ。胞衣の下たるやうふとくある
1。産婦を詭くとやく。その心の降やうふ。胞衣も日數過く自然ふ
下ると待つもよ。いはきふもとの便宜小ぬきとべ。あるひに胞衣
の子宮口ふたきおりなるやゑと知り。崩血已ふ甚き。の。医安小手を
下へがくねおとあり。の。ふとたきとべ。下さんとまくる胞衣ふたき。血山
の崩ふおとふ下り来る死ぬるものあり。その見つけ。周身の經脈
甚く鼓動胸腹の動悸波濤のとれ。かよび昏眩頭痛上衝つよ

きよのなまく。決して忽視もあらば。さてその症あるものも。た
とへ胞衣を子宮より拽りたりとも。陰戸よりやめらむをぬれ出さ
ざ。おぞらく留めること。第五の體遺するものと申す。あらひか一
て。のうふくも穩かさうたるとき小取が。はくも直かぬさう。綿
とのひ手をやくませども。時の宣小從づ。第三も。臍帶とつまひれ
て。胞蒂のところより断つてのものも。細き筆管はふろれ松箸など
の。木理緻密ゆべて折りきもの。稜あるとひらて。右の食指頭
み添てととふくはく入へ。胞蒂のところとぞく。箸の稜を胞
衣を握りて指のもらひあつと推て。胞衣の脱がるやうな
まのを握り。左手の力を添へ。拽出をもう。第四も。膀胱中小小便
充満たるせり。合ふく。胞衣の下ぬきのあり。そよも先小便を通じ
き。

せき。後小胞衣を下さう。第五も。坐波女の殊心得金たこと。難産了
少く體憊たるもの。胞衣を。ふくの小拽出せば。ほくひく血漏下てそ
のまゝ死る。ほく衝逆氣絶する所をあき。昔毛らの胞衣の陰中ま
で拽出してこめかき。必ずし出をことなく。腹上も布ふく。やうは
き。高枕小右側卧させ。白湯糜粥をとく。藥をとく。もそろくとの
はせ。肩背腰脚などを。按あら。あらの轉籠に談ふじて。時あり
を消息。催眠たらば。下体むくとさせ。のも小さく。が尤す。
のうとふと下陰戸まく。出一からぎまく。不ど過ても子宮の口
を閉るの急。要小ぬれ。がづれのあり。疲れるものを。せんぐもさ
く拽こう。あくまで鳥のたるやうなる急憂。要あひ。臍を
噬の悔ある。おもなきの事。この車と心得をして。人を害との世ふ多け

毛べくどくもあをとれたり。毛をの胞衣も。ねたされとき
も心と用て。綿と炭塗の大さふやくはよみだる。豫めうへれ
きる。脱ごうたるあくともして。脚をつむり。陰肉のあくやう小
さく。側卧小さな。あく。病家須知小くへ記載て。俗家小示在
し。毛血の暴下ん。うきかそるゆゑ。かく。やくも。おとなり。胞衣い
かく。下せとと。婦人ふひき。せく。安心すへまじ。衝逆昏眩乃寢
も決してかたむのな。暑月も六七日。寒時も二十日あまりを過せば。
必腐爛マ下るものふ。害小ならぬ。毎もたゞ一あること。決
して恐れぬ。あらぬを。坐姿の心得あり。躁々非命小階
もるあとの多き。なげうへり。こく。小あらゆ。また。児のまご。娩出
ざる。小。臍帶先出る。毛の臍帶を壓挾。血乃運輸を閉塞。とあ

毛。其児の分娩ざる前。小死ぬることあり。故小臍帶先出。免身の
うだる。速小との臍帶と子宮中小推の事。あ毛を救す。まれ
ち産婦の枕。うて代高。仰小卧せ。児頭已小子宮小脇たる。
児頭と。と。小その臍帶を推。う。あ。う。あ。毛。後條小
説明毛術。小よ毛。かく。毛。小。毛。よ。毛。速小児を拽出。と。毛
の難を。ま。の。毛。一。む。が。ゆ。多。小。の。術。も。用。る。小。及。ぬ。あ。と。の。多。小。く。毛
く。毛。の。毛。毛。児頭已小産門を出。る。毛。小。臍帶を。頭。小。は。と。よ。毛
と。三。四。西。小。か。よ。ぶ。毛。あ。毛。を。そ。の。は。小。揃。出。毛。と。毛。小。は。得。て
も。見。り。吭。を。し。あ。殺。毛。あ。毛。そ。の。ら。た。ふ。ら。食。指。か。く。頸。小。繞。大
の。臍帶を。一。匝。左。と。右。へ。う。毛。ぐ。毛。き。く。る。腹。そ。の。ゆ。み。た
の。つ。あ。ひ。と。う。か。ん。え。解。腹。毛。の。底。辨。児頭。を。も。ち。あ。て。あ。毛

を解^{ハシ}せし。かゝてを解^{ハシ}るの速^{ハヤ}くよろしく取^{ハシ}ふ。その間^{ハシ}一寸^{ハシ}あま
止^{ハシ}を爲^{ハシ}ごとく両^{ハシ}そろ^{ハシ}紮^{ハシ}て。その中間^{ハシ}よう夾断^{ハシ}す。さうしての後^{ハシ}小兒^{ハシ}を
分婉^{ハシ}しむる手段^{ハシ}を爲^{ハシ}す。惣^{ハシ}く臍帶^{ハシ}を紮^{ハシ}ふ。紺麻線^{ハシ}を用^{ハシ}ふ。外科^{ハシ}
金創^{ハシ}小用^{ハシ}するものな^{ハシ}だ。たゞおろ^{ハシ}しけども。今俗間^{ハシ}ひの紅木綿糸^{ハシ}を用^{ハシ}ふ。
るが常^{ハシ}のことな^{ハシ}い。あくまで繩糸^{ハシ}な^{ハシ}どあく^{ハシ}紮^{ハシ}あど^{ハシ}す。あくらり
ことともぞべ^{ハシ}俗意^{ハシ}小^{ハシ}をまさらぬ^{ハシ}がよければ。左ひも^{ハシ}右ひも^{ハシ}をそろふも
あらゆど。本綿糸^{ハシ}へう^{ハシ}紎^{ハシ}ふたと^{ハシ}よつら^{ハシ}。ゆゑ下繩糸^{ハシ}かど^{ハシ}。
うした^{ハシ}世間^{ハシ}坐婆姿^{ハシ}の爲^{ハシ}やう^{ハシ}。臍^{ハシ}のう^{ハシ}ス長^{ハシ}く剪^{ハシ}の^{ハシ}てたる^{ハシ}乾^{ハシ}あ
かそく。暑月^{ハシ}も必^{ハシ}腐爛^{ハシ}や^{ハシ}。うの腐壞^{ハシ}より児の病^{ハシ}をひき出^{ハシ}すこと
あくまで^{ハシ}決^{ハシ}して長^{ハシ}と好^{ハシ}い^{ハシ}。臍^{ハシ}う^{ハシ}ニ寸^{ハシ}を^{ハシ}りとのこ^{ハシ}。臍^{ハシ}
う^{ハシ}う^{ハシ}む^{ハシ}よ^{ハシ}血^{ハシ}を^{ハシ}くあぐま^{ハシ}かく^{ハシ}紎^{ハシ}は^{ハシ}。一寸^{ハシ}を^{ハシ}りもあくら
く

紎^{ハシ}。その中間^{ハシ}を剪^{ハシ}たり。竹刀^{ハシ}少^{ハシ}く切^{ハシ}がむ^{ハシ}う^{ハシ}よりの習^{ハシ}あ^{ハシ}。我^{ハシ}れ
小^{ハシ}從^{ハシ}もく^{ハシ}し^{ハシ}から^{ハシ}。胞衣^{ハシ}のう^{ハシ}こを紎^{ハシ}こと。後^{ハシ}小^{ハシ}胞衣^{ハシ}を拽^{ハシ}こ^{ハシ}あるふ。
血^{ハシ}と鴻^{ハシ}出^{ハシ}して。臍帶^{ハシ}不^{ハシ}そ^{ハシ}り^{ハシ}力^{ハシ}を用^{ハシ}ひられ^{ハシ}なり。臍^{ハシ}へのう^{ハシ}たれ
う^{ハシ}う^{ハシ}匱^{ハシ}ふ^{ハシ}。臍^{ハシ}の上^{ハシ}へ折^{ハシ}りて。その上^{ハシ}より單^{ハシ}の布^{ハシ}ふ^{ハシ}う^{ハシ}く^{ハシ}ま^{ハシ}れ
く^{ハシ}。紙^{ハシ}あくまで^{ハシ}あくまで^{ハシ}つむ^{ハシ}う^{ハシ}つむ^{ハシ}う^{ハシ}。から^{ハシ}。臍帶^{ハシ}退落^{ハシ}後^{ハシ}灸^{ハシ}す^{ハシ}れ
あくまで^{ハシ}やく乾^{ハシ}む^{ハシ}た^{ハシ}らふ^{ハシ}。病^{ハシ}を^{ハシ}よぐた^{ハシ}う^{ハシ}らう^{ハシ}。そ^{ハシ}延^{ハシ}
謬會^{ハシ}する^{ハシ}。火氣^{ハシ}の児體^{ハシ}小^{ハシ}敵^{ハシ}ま^{ハシ}く^{ハシ}小^{ハシ}ち^{ハシ}る^{ハシ}。う^{ハシ}る^{ハシ}て病^{ハシ}を^{ハシ}ひき出^{ハシ}を
そ^{ハシ}らわ^{ハシ}とある^{ハシ}ことある^{ハシ}。よろ^{ハシ}う^{ハシ}う^{ハシ}ぬ^{ハシ}ことある^{ハシ}。艾灰^{ハシ}五倍子^{ハシ}を^{ハシ}せ^{ハシ}成
す^{ハシ}う^{ハシ}う^{ハシ}る^{ハシ}。詮^{ハシ}う^{ハシ}じことある^{ハシ}。あくまで^{ハシ}人^{ハシ}の心^{ハシ}小^{ハシ}は^{ハシ}う^{ハシ}せて
を^{ハシ}く^{ハシ}。やくら^{ハシ}。な^{ハシ}熊膽^{ハシ}を水^{ハシ}く^{ハシ}た^{ハシ}る^{ハシ}と貼^{ハシ}る^{ハシ}甚^{ハシ}あ^{ハシ}。苦水^{ハシ}臍^{ハシ}
帶^{ハシ}とつ^{ハシ}。腹^{ハシ}中^{ハシ}小^{ハシ}浸^{ハシ}入^{ハシ}て害^{ハシ}とある^{ハシ}。そ^{ハシ}う^{ハシ}う^{ハシ}て腹^{ハシ}痛^{ハシ}搗^{ハシ}糊^{ハシ}を^{ハシ}食^{ハシ}し。遠^{ハシ}

ゆき児を殺ことあどべ。決して為べうらぎ。また脇口いまと乾ざるりのと浴く
のも、腹痛と惱あるひに搗搦を發し。或も卒死して児をそぞるてある
は必ずあるの乾涸するまづ小浴させよ。さて先の胎衣已小出づる
先冷水一盞をあぐまのもの。布ふて全腹を纏ふ。もとよりがごとくふして。そ
の後薄ふうつて枕をなづいて先右側臥せよ。この産後の帶も。布をす
みく臍上を禁て。世間坐婆の為せよ。かゝたるものすこよ。坐草ひさしく應
たるものと。産門小綿絮をあぐま。坐婆の手をそえよ。そのまゝ小匍匐ふさせ
て蓐へうつ。蓐上ふくても猶あくたる綿絮ともうせよ。人少ひひそめて。
婦のうしろより抱く體を靠うらせ。ことにそりへまとうことねやうふく。
さて左の乳の下より鳩尾のあるへ手をやりて。動悸をうごひなよ。わら
くちがまうたりとあそよとれふ。横小卧てよ。産後小水を喫せよ。や

ゆふくと。聞入オトキ輩もあることあまび。黒薬とひひく麻の嫩苗を黒焼
小しく懷中。そと水ふく。服む。あきづらの不くちもよ。あ
あさ
麻苧もよ。百草霜もよ。一うづ。伏龍肝とく。數十年を負ふ。
電の下の通赤小なり。土塊あり。つぶきの藥舗ふ。それもあ
す。そとらを細末ふく。用ふもよ。いばきの藥もたゞ冷水一盞を
喫めんためのと。その効をうむ。小あらだ。あれ賀川家あとふち
秘訣ともあると。近來の経験。小くあらばく。也しく千金
方とゆむの書ふ。を出たることふく。その後支那小ても用ふりの
あり。甲斐の德本など。冷小便を服せよ。と。その意も似よ
てたるあとなまども。不淨のものもいふ。あらん。たゞ湯を服く。ハ決
して効なく。必新汲水一盞を喫む。がりふく。時過くちのむを

あとなり。その水を用るどれ小も昏眩崩血などの變をみせぐ。その効
舉て數々。その佗効用多端ことなく。胸腹動悸劇。血大小下て止
ざるものあど。症小より大へ。湯液を冷服しめなど一々奇効を得ても
この意なる。もぐもあきらのあととも坐婆心得居どれも人代救出く乃
りきと多く。此小諄をのなれば必疑惑あとあることうそ。產椅
を用だ。高枕の蓐をばく。そのうへ右側卧さとく。俗家ゆも示
たけく。病家須知小載。産後之熟睡を戒ることく。尤あき
得ゆ。快寝をめち。必喚覚をとなく。そのまゝ小睡をべ。體をゆ
る産後はよく寝たる後も。残血も滞なく下て。復素とともにやきて
も。前條かりあるべく。たゞ難産後さて。眼をまぶすなど一たる後。ある
ひらきのまぶむりのも。寝たるとも忽視のまゝねあともあきづく。旁

小人をほけく。その眼面と息あひをあろばけさせく。産後
直小藥湯或も塩湯少く陰岐を慰めとなど。分娩時日と過く。困
難ひきたりの少く。必爲てよろしくてよきあきとも。平産もそとま
でふるかよやど。そのくわ懐姪をも分婉を。自然のものを。産前
故あれか。熟練もせぬりのを。小腹を按摩させく。かくして胎のさ
うとなるることあり。もぐもあすく小人内作意を加され害あるこ
と歟。づれ小審辨おく。あきさあり。

臨産小坐婆姿の心得。並て坐くも

臨月小なり。腹の形上張大。下のうへ狹小のを。順孕と。下張大
小上狹小を。逆孕ともいふ。おきる拘がれたことなる。もぐも小も
のぞく。順逆を必観轉の機小より大へのれものあり。とぐく

もとよりそのなり小孕りのとくをもと。横骨の上際小両指を容
あらわす難産也。胎偏側や股小没がゆくたる横産ともある。あらわる
べきことあらわる。あらわる光手術の在とろなり。

七八月ごろ小脇腹りと。或も腿あと引けり。また腰のみく伸の
ぬるあとありて。水血併下との。正産小あらぬめあくち。腰筋いと
み甚うらぬものなり。あらぬ多くも胎のうごろたる。ふるふま
となきふ。そよび正中小毛毛と。その痛ハ必休とのなり。ゆゑひそめえと
け肝要なりとあらう也。

孕たびあら小産をもとめる。房労と飽食をしめり。かく
小産一たび。子宮の餘益を残ぬやう小掃除。後日乃害をふ
せぐ也。

九月ごろ小腰急痛。あらひも血下り。水汎交りとく。うゐろて産せざる
もの。正産小あら。腰痛甚く陣痛止ざれどものも。多くも半産う。半産
のうごろ。又ふくあらるるをうかぶれとのあり。

臨月ちうたん。まことに産小臨く乳汁の出るを。子が乳をもろとて。胎
児の死たるなりともうさるあとふく。多く死胎などと見。乃
腹中小あるをなふ。乳少く育ものとあらふも。おろおなる臆揣あり。

胎内の児をやへ用なくあり。血のあまうが。おもく乳汁とあ
まく出るなりとあらうべし。

七八月のころ。痢病の勢迫ふく。偶と分娩あるとの。多く死胎なり。
臨月のものもあらう。

傷寒。痢病。まくら麻疹。物熱とげれた病。小かく。日戌經へ

たる。胎中より血瘀下にとのも。胎の死たるが多し。水腫ひどく
患すとひきえ。やもじきべ墮胎するをめなく。ゆゑに傷寒。痢病あ
らかく。下を爲れ症あらび。手まへてくせしむべならぬとみて。有身
ゆゑ小下なくも下さきぬなどりやうある。醫師小かでたる。坐波安
く心地けく。後害を受させぬやうふとぞ。

産小つすく。腹痛心下脹満く。苦悶もろきのち。飲食の停滞ふる
きの多し。やろえあーき坐波安。陣痛ふかくたるをむす。産婦の力
を生じゆく。湯漬をどく強小喫するものあり。おのこきふ喫たるる。
多く滞々降る。そよよろしく嘔逆あとを促大なる害となる
をとある。志のくなむと。胸下痞く。氣血の運輸あーされど。分娩の
ねる。おのく。食滯う子癪となり。産後も昏冒崩血などり急

變ゆく死ゆいふる。食を強小喫たる。停滞したるより發生す。
まくあるあとある。その腹満痛りのを。醫師もと生と知たらむ。
ちやく停滞たるもの。ひらりのじるやう小せしむべあることたり。
妊娠えぐら空腹ありといひそ。食をかむむならば。おもつての
ゆく温ある湯をやう乃飯を。もと一内を小あくへまづのく。必
し方より強ると可からぬことをなり。

食傷霍亂の惱。むしけづたて産る児も。多く育うぬるのゆく。
先の死胎。多くものぞ。

産小かく。面色のあまり小赤も。産後脱血するおもあらん。の
神くわり。孕。

臨産。背冷。の。或も面色脣はくを青白く。呼氣冷る。の。産後

の變あらんと。の体あらう爲。

惡寒戰慄。乳房の痺軟。かたりまること。胎児小變あること。豫いひき。

産小やく。身小微熱あるをうそと。汗出るもの。あくびざる。

も。産後のろばのひあらん。氣をくもるべ。

産小やく。虚里の動といひ。たの乳の下もくつに劇。

産後小癆證。あらんと。ゆくよりあらぬれりちよて。

臨月小なり。崩漏。ある。子腹中小死ぬる。あらゆ。産後

變証出る。あり。

産小臨。その腹石のむく。堅く。ほやなれもの。胎の死する。ふや

とかんぐみ。

産小やく。腹大く。痛く。死胎。かうする。あとなり。たゞ逆産。小
てを。活胎。かれら。その痛腰。肛門。あぶる常のあとなり。忽く死胎。その
腹を按く。氣力なく。指のあもつ。とあくこしてす。

妊娠の腹。小なり。重たる。三貫目もある。を負へる。がむかひやく。小
る。胎死した。なし。

陣痛。少々の止。をのむ。腹中の児死た。あらばやと先ありべ。

陣痛の少々の止。をのむ。小便の通じのぬる。あらばやと。あり。それをあ

やまく死胎。これ。大。害をひだ出。と。あり。よくあらえく。小

便閉た。も。その小便を通じ。まとも。陣痛。まことに。ほそり。

臨産。小便の通じ。ぬる。児頭。横骨の正中。へつた。けく。来る。ゆゑ。小尿

道。自塞く。通利。あまかり。あれ。常のあとなり。り。あらば。と。小便の

通トいさゝのを 滅閉なく 可也。逆産。横産。死胎。ありぬと慮べ。陣痛のあひ。小眠をもと。休み。おとひ。産の氣のまき。到ぬりのあり。

必促く。努力せしと。靜小寐させよるがよ。

陣痛時。うつて。婉々なるに。旁かあり。と。小聲かく。やれども。よ。

ろしのらぬ。おとなり。高聲。ゆくは。ゆたが。もとも。必制。とく。産後もよく寝。させ。休む。大小損ある。あとふく。そもそも。側卧。小せ。筋筋。あり。ゆう。小ち精神の鎮らぬ。ものあり。おのあく。ゆく。うらう。筋。

倒産。横産。破膜。きづて。逆ぬ。ものなり。

臨産。陣痛

とく。來。産。う。の。も。そ。の。痛。忍。止。た。腰。間。か。く。

腹。小。微。痛。と。ゆ。ぐ。ゆ。の。り。陰。中。と。探。く。る。筋。と。被。膜。い。ま。破。ざ。る

もの。五。六。日。を。過。へ。た。も。必。死。胎。か。わ。う。じ。産。の。期。自。然。小。来。る。と。ま

ちやう。あせり。膜。を。衝。破。あ。と。て。強。小。娩。身。ん。と。き。る。大。小。害。と
なる。あり。と。膜。皮。己。小。や。ぶ。真。液。流。出。て。臍。下。掌。痛。の。こ。く。肛。門。小
や。よ。ば。ざ。る。と。の。へ。死。胎。の。候。と。く。も。や。く。兒。を。出。して。よ。

胞。水。の。破。る。こ。れ。小。腹。中。た。ー。う。小。音。あ。り。て。產。婦。小。を。と。知。き。る。產。必。や。け。

音。も。な。く。傷。た。る。こ。れ。と。知。ぬ。り。の。う。わ。か。ハ。難。產。な。り。

順。產。と。知。た。る。と。の。児。の。娩。ぬ。さ。れ。小。胞。衣。の。先。出。る。も。必。死。胎。ふ。き。よ。と。な。り。

横。產。逆。產。半。產。の。と。の。も。胞。衣。先。出。く。と。と。て。死。胎。ふ。き。よ。と。順。產。ふ。て。た

ー。の。死。胎。と。え。き。と。あ。た。う。が。先。と。の。胞。衣。を。斷。く。る。筋。

児。頭。の。子。宮。口。小。む。の。ひ。た。る。を。指。頭。か。く。探。て。そ。の。口。中。を。診。小。舌。動。と。な

く。臍。帶。小。脉。動。あ。れ。死。胎。あ。

そ。の。腹。常。小。冷。々。な。ふ。と。も。ひ。が。死。痛。を。お。だ。え。陰。中。よ。り。黃。汁。ま。く。

赤小豆の煮汁のやうなるものを下へ。臭氣甚き。胎の腹中おもどち小死すみるを
なき。やくその胎を拽出ひきしゆつを爲し。

燥屎產路そじゆでりゆを妨さまたげ。婉まことぬるをとあり。そよご指あゆく陰中おもどりを探さべんを。
肛門こうもんの口くちをあらう。堅かたい石いしのおく。指先あさりがあらうをとある。一いつうち。
その產婦さんふがりり太便おほいんーたりとらひく。たのたのの小さきと斷きりた。油あぶら
食指じきかくかくてうかぬりく。肛門こうもんへうるくさせへいくたびもかくのがくく
く。がくはぐを油あぶらのくらくやうやてのち。肛門こうもんの縁えのきを摩ま旋まわし。
大便おほいんを導みち。やうく指あゆくつた出だははを。蜂蜜膠鈴はちみつの類るいを可いどど。小
へのあるとれふも得えがれたのとなく。油あぶらのくこもるのふぬさます。つ
きときの宜まことに不從ふじゆく用もちふ。ををあきふも通とおづぬるをとる。
油あぶらふくも。まこ蜜まこはち小あつきのばたきばたきたるふくも。煙管きせんの頭かしらを

さうしたる竹たけの方ほうを口くちふくみ息ききをきくらぐ。肛門こうもんへうのくさせきくもじ。
唧筒ききとうふく注射ちゅうしゃこと尤よす。

児頭陰戸こどひいど小出こしゆつく。ひくく動うごくことなく。頭皮かぶのひゆるみたるものたゞたゞも。
臭液くめいのあつて來きるをとのたくば。晏まつ小死すみたりと爲なむ。陰肉膨脹膜いんにくぼうぢょうはく
中の水液乾燥かんそうつた。陣痛じんつうふく逼壓せきあつらるをども。脱出だつしゆることとなづ。搖ゆ
動うごをたゞたゞかねたゞたゞ。進退しんたいまつまづく。死死たるやうふくのきども。鼻くのこと
出だして太氣たいきを吸く入いするのちかあらねば。ひくく口くち鼻くのことふくびくふくびく。晏まつ
晏まつ小死すみるとのふくあらむ。やうのと尋常じんじょうの產科さんか小諸おもろ必ひ鈎くわ
を用もちて曳出ひきしゆつをゆゑふ。非業ひぎの死死をさすらむなり。むうーうーこの産科さんか
あとの外ほかむづづきをとふ心得こころえ。難理なんりことをども。予のの後のち條じょう小説こせつ
ありとものうの發明はつめいを聞き得え。その時日過すぎて。交骨再閉こうくわさいへいあるをぐる。

ちのを俗人ともと小も救得きゆだえらるゆく。たゞひ児こが死おたる少すくなせよ。鉤つる小こ
破傷やがあるひら截断たちきりあるひら出でたらん少すくなへ。その父おや母ははも後のちくらさそぞ
追恨おもかげあるひやよび。坐婆ざぶも俗家ふるいえもよく心得しゆくわく。もとあらうお
立成たてな鉤つるうけ翠者みどり小委こまいとなうるゆく。

妊娠えんじ大小浮腫およひなるものが産うぶかうぶる三日前まへまへ小水こみず下さすく間歇まけなる
る。多い死胎しだいあり。浮腫およひなくて。水みずを下さすものあり。そきひくよべ
ままあら祕ひど。その水みず小色こいろのほきたるよ。そのまま産うぶかうぶるよとあれ
きのふく。もらくとくいのねのどと先まへあらうゆく。

牡尾胎ぼひたいる。順產じゅんさん少すくなく女子じょしが多おおきものぞ。こきら母おやが水腫みずしゆをまづひ
て。その水氣みずきが胎たい小こむぼぼ。児この周身浮腫およひると娩出まんじゆるよだふ。頭かしら
胸むねの水みずを下さへあがあがく。腰以下こし以下まへ大おおきなくく。がいなるをめなう。ゆゑふ
を多く下さへく。母おやもあやふをあとあるものなまべ。水腫みずしゆ甚せんき孕くわい婦ふをと
ち。意おもを留とどて胎たいの死生しじやうをううままたことから。胎たい児この手足てあ疲つかて。腹はらの
り大おおなるも。その内うちがあるもの水みずなまべ。産うぶ小こ臨りんく。産うぶうぬる
ら。死胎しだいあるとたゞよふ知しらば。児この腹部はらぶのうろうろきこころこれて。
まづ手てを出だしてものを取とる。不そく疲つかうける。死胎しだいある。その
血ちの運輸うんゆあるゆゆ急せき小こ疲つかなま。活胎はくたいの臂ひらも。その色いろ白しろ青あおく。肥ひて動うごぬ
すすふくも。たととなく活氣はくきあるゆのなり。

児頭子宮口おのまこ少すくないよる。此これ小こまき探さがく頭骨かぶつう。このりあるやう少すくなく。皮はなな骨こ少すくないよる。やう少すくなかがえ。囊う小こ物ものを入いて振ふやうなる音おあ
る。ううかをううるを。死胎しだいなり。かかたたるをひよどると。の胎たい
腐く壞ぬて。皮肉ひにくをうれぐふありて下さるを。さあさんら。母めもほほ。穏おん
ならぬをととななりゆゆ。ああくくこころえさせせくく。

児こううき出で。聲こゑをたてぬぬらへ。冷ひるをのななり。そも小こううりて温ぬる
ら。日數歷ひふ歴へまま少すくな死死ぬぬるを。ななり。く心得しんぜ。死胎しだいああぐ湯氣わがのう
ややああくくななるを。なな。

此三十三ヶ條じょうを。もろとと切要せきようのあと少すくなく。坐すわ姿すわざく記得きとう。事實じじゆ小
ああくくく。ああくく擴充こうこう。ああくくへの發明はつめいを得と。人ひとを救きこと多おおうらむ。
仁惠じんえいをうづかづかづか。ああくくの小こ世よの坐すわ婆ぼ。命めいの貴重きじゆうある。ああくく

おりくく。その職しょく小こ疎疎小こ惨酷さんくある。ああくくななく人ひとをああや。天あめ命めいの畏いべべ。ああくく然悟ぜんご。いと蠢愚しゆぎことなり。まま都と下しふふも
なななことななど。貧罄ひんせい。多た産家さんけいも。無事むじよ。少すくなよ。児こともああろ
も。ここく代委だいま。ああききともまま世よ。ううななりと。ううけけ。ひひ。絞殺しめさま
たも口鼻くびを。よよだだ息きを。ら。あるひひに壓おころ。ああせせもれ坐すわ。寒さ鄉さう。ふふも。今いまも。ああくくとき。そそうのんふふ。のり竊ひちよ。小こ鈎くわを用もちて
生いき児こを揃そろす。鑿師くわし。むるううは。ままたた巨ご罪ざいなる。ああがて。ああがて人ひとも。天あ祿ろくと。ううとの具ぐ。児こ一いつ人ひと。人ひと數すう人ひと。人ひと數すう人ひと。人ひと數すう多おおの児こを養育よういく
せんせんううに。飢寒う死死。死死。ああががふふのううぬぬを。ななる。あるののからからだ。親おと。ななう子こと。あある。宿縁しゆえんのややを。ねねへ。用事う事じ少すくなむ。ああらぬぬ。

「小貧窮ひきゆくや。かひざけをばとく。みづの殺さあやまを殺さむ。そ
の類るいをよひまへぬ禽獸きんじゅをせぬをとなり。かゝる心こころを起おきてくら。たゞひ現あらわ
罰ばなら。も。貨かのたあふ人ひとをあろもと盜賊ぬとうぞくも。ままたたる大罪人おおざいにんなり。
天あめの譴つげい。のちくびとゆそほへたことよあらばや。

こうあげや。心得草卷之上 終

